深刻な人口減少・超高齢化とその対策

レジメ

諏訪商工会議所　　26. 3.13　矢島義恭

1　人口減少と超高齢化が急速に進む

人口減少・超高齢化社会　　生産年齢人口減少社会

a　全国の人口は３０年後に 2,078 万人減少、 16.2%の減少、高齢者 31.2%増加、高齢化率 36.1%

b　地方で人口減少超高齢化が先行　　最大の秋田県では 32.1%の減少し、高齢化率 41.5%へ

地方で大きく急速に進行し
大都市圏ではしばらく横ばい

長野県人口 22.5%の減少、高齢者 12.5%増加、高齢化率 38.4%
諏訪圏域　 24. 3%の減少、高齢者　8.1%増加、高齢化率 38.3%
諏訪市人口 25.1%の減少、高齢者 11.9%増加、高齢化率 37.6%

c 大都市圏ではしばらく横ばい　　東京都人口　6.5%の減少、高齢者 53.7%増加、高齢化率 33.5%.

2　人口減少と超高齢化の原因のメカニズム（両者は表裏一体の関係）

① 長寿化により高齢者が増加し続けてきて、高齢者死亡数が急増
出生数の減少 ② 女性の合計特殊出生率の低下（未婚率の上昇、晩婚化、晩産化、出産数の減少）
. ③ 20～39 歳の出産期女性人口の減少　⇒　出生数のさらなる減少の循環
. ④ 地方の高卒後の若者（女性）の大都市流出⇒　成人した若者や成人の人口減少、出生数の減少
◇高齢者数は減少せずむしろ増加　⇒　高齢化率の上昇、　　生産年齢人口の減少

3　諏訪市の人口の動き

平成 13 年の 53,945 人をピークに減少期へ、平成 25 年 50,348 人、平成 52 年に 38,349 人へ

a 若者が流出　山裾地域(市街地)の人口激減と超高齢化　　(大都市や他地域への流出)
上諏訪市街地、山手地区で人口激減と超高齢化　　4 地区の旧集落でも同様の動き

b 若者の流入・定住、新商業地域形成　平坦部水田地域で人口激増（アパート、宅地化、商業地化）
4 地区と上諏訪南西部で人口激増、新興のｻﾝﾘｯﾂﾛｰﾄﾞ商店街や消防署周辺商店街の形成活況

✧ 上諏訪市街地人口の地盤沈下と駅周辺商店街の低迷　　上諏訪人口は昭和 40 年には諏訪市の 68%

4　人口減少超高齢化の影響と課題　　〔例〕　.

a 製造業と観光業の縮小傾向(p.16)　　b 新設住宅着工戸数の減少(p.17)
c 土地需要の縮小と土地価格の下落（p.18）　d 空き家、空き室、空き地の増加
e 要介護認定者や医療費の増加（p.19,p.20）　f 商圏人口の縮小による商店街の低迷
「人口減少超高齢化社会がかかえる課題の素描」(p.21)

5　人口減少超高齢化への対応策は複眼的に

A 積極的なくいとめ策　　原因　①死亡数の増加、③出産期女性の減少　⇒　対策なし
.② 女性合計特殊出生率の低下　⇒　国の少子化対策が有効で、国政の課題（自治体では困難）
. ④ 地方の若者の大都市圏流出　⇒　都会から若者のＵターン、Ｉターンをはかる
⇒　o 暮らしやすく子育て環境のよいふるさと像　　o 高学歴女性の職場
o 産業の振興・雇用の増大、若者定住促進-子育て支援、（定年後の田舎暮らし転入推進）
o 岡谷市、下諏訪町、茅野市、原村、長野県など　　成功例は少ない

B 受容した上での対応策　人口増加基調の地域計画から脱却し、人口減少対応の地域振興計画へ
医療・介護・シルバー産業などの振興、対応した事業の見直しや再生

6　地域の振興活性化構想への提言メモ

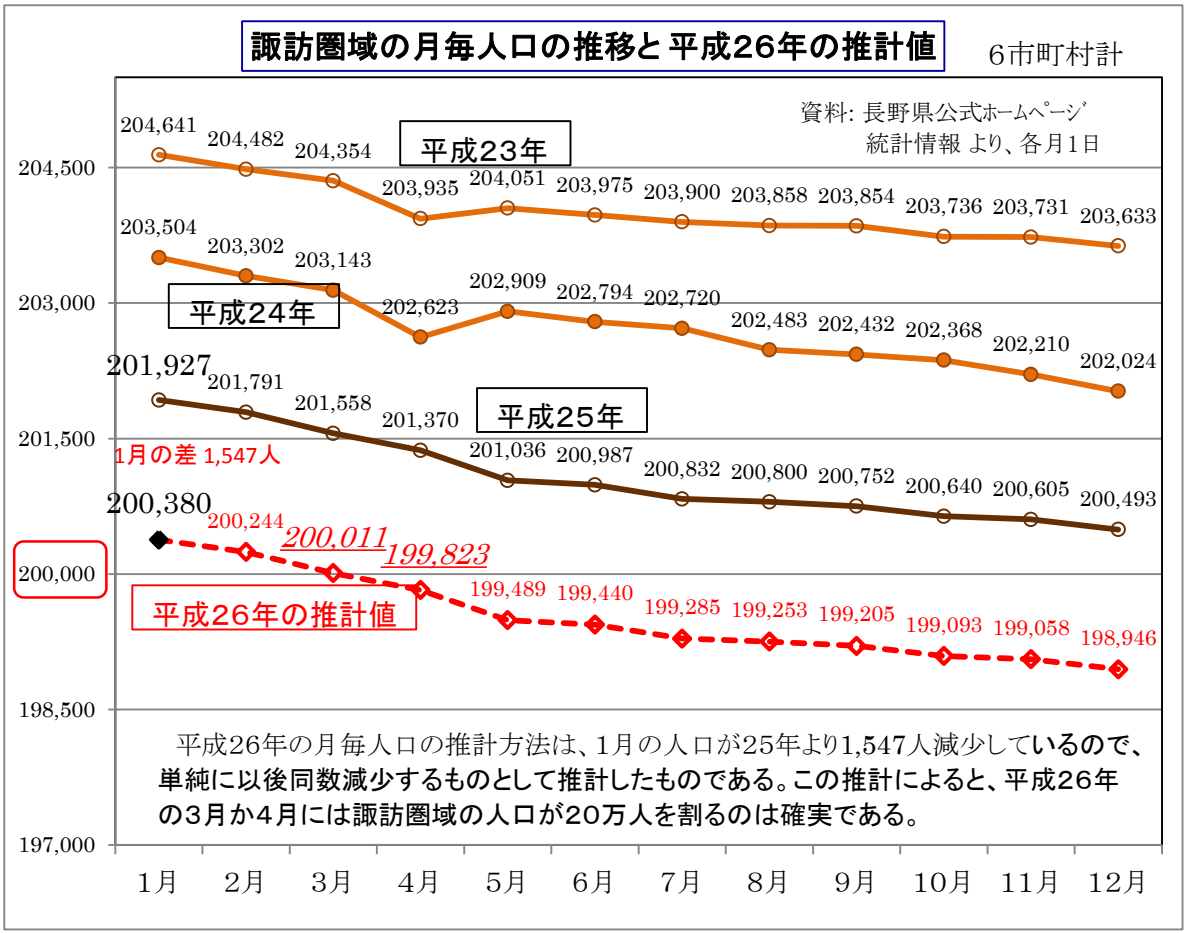
参考までに私見を

①	「縮む諏訪を元気にするには」　グランドデザイン素描	24. 5. 9	(p. 22)
②	「上諏訪市街地の再生にむけて」　提言検討メモ	24.12	(p. 23)
③	「超高齢化した上諏訪市街地の街づくり　への提言」	16. 3.29	(p. 24)
④	「駅周辺市街地の将来構想にむけて」　メモ	26. 2.26	(p. 25)

以上

諏訪圏域の人口は　３月か４月に２０万人を割ります

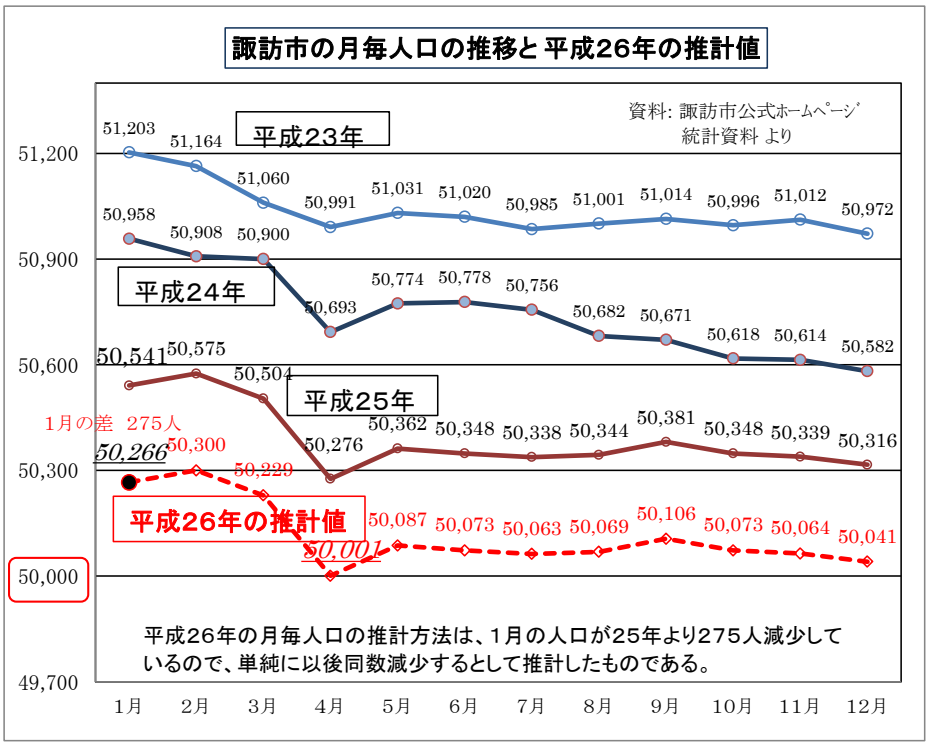
2014.　1. 31　　矢島義恭



o 諏訪圏域では人口減少がコンスタントに進んでいます

o 人口減少のスピードは早まっています。

諏訪市も平成 26 年の 4 月前後に一時的に人口 5 万人を割る可能性があります



〔人口推計値リポートNo.1　総人口編〕

憂慮される日本の人口減少と少子高齢化、その原因について

25.8.16　(3.20)　矢島義恭

ここの推計値は、平成24年1月公表の国立社会保障・人口問題研究所による中位推計値

Ⅰ 日本は人口の減少局面に入り、50年後には３分の２に減少、高齢化率は４０％に上昇

図1

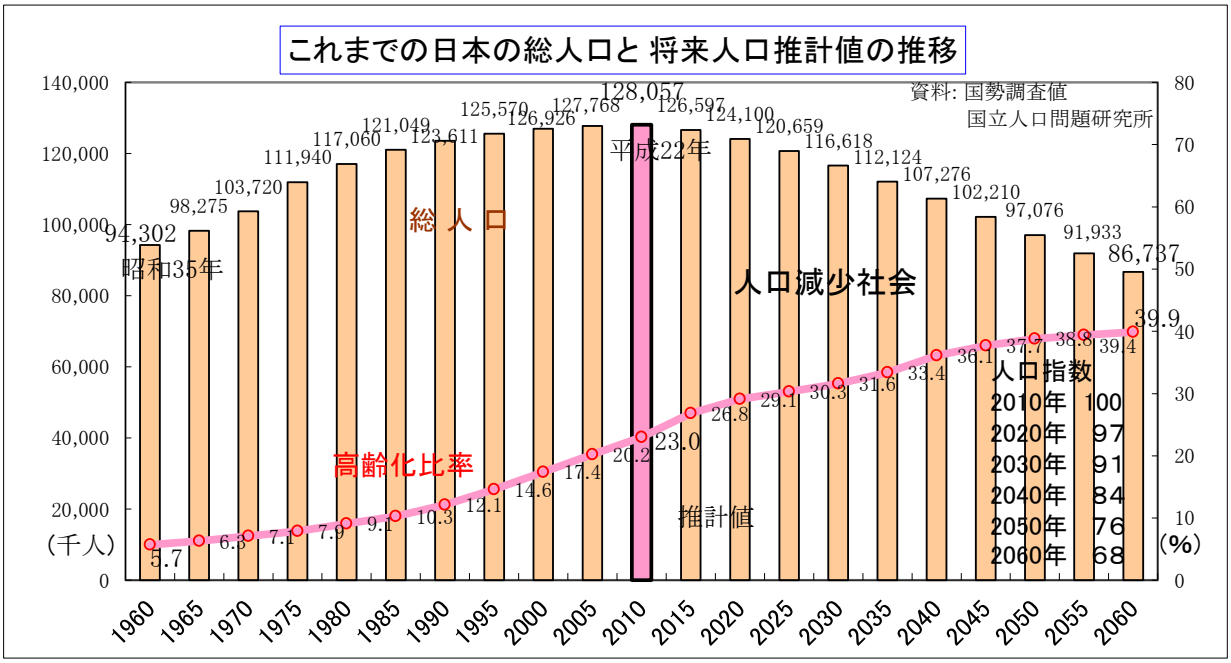


図2

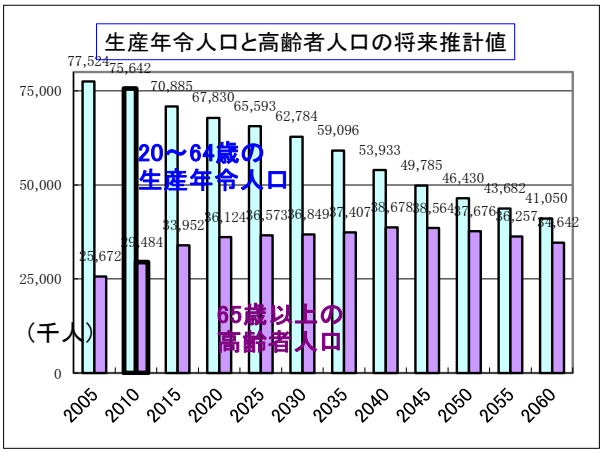
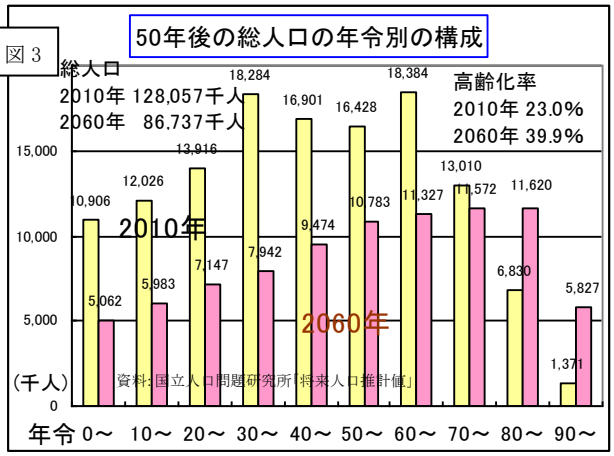


図3



1　長期的な人口減少による日本社会の先細りが始まった　　・・・人口減少社会へ

50年前の1960年の総人口9,400万人が、2010年には1億2,800万人と3,400万人増加した。人口は2008年をピークに減少局面に入り、20年後の2030年には9%減、30年後には16%減、そして50年後の2060年には32%減の8,700万人と推計されている(図1)。未曾有の事態である。

2　65歳以上の高齢者人口は増加し続け、その後は横ばいになる

人口減少にもかかわらず、高齢者人口は増え続け、2010年の約3,000万人が10年後には3,600万人と20%も増加し、その後は横ばいとなる(図2)。その為に高齢化比率は2010年の23%から、2060年には約40%へと上昇し(図1)、想像を越えた超高齢社会へと突き進む。最多年令層が70歳代となり、およそ半数が要介護認定という80歳代、90歳代の人口は2倍を超える(図3)。

3　現役の20～64歳の生産年令人口は激減し続け、50年後には半減する

この超高齢社会を支える生産（勤労）年齢人口は総人口よりも早く減少が進む。2020年までの10年間に10%減少し、50年後の2060年にはほぼ半減してしまう(図2,図3)。減少し続ける生産年令人口で、増加する高齢者を支え続け(社会保障)、膨大な国債を返却し、国内市場が縮小するなかで経済の成長が期待される等の課題が山積しており多難な日本の将来像が予見される。こうした人口減少問題への対策を先送りしてきたのが日本の政治である。

25. 12. 12（10. 26） 矢島義恭

日本と地域の30年後までの「人口減少」と「超高齢化」

人口のピーク時をすぎて急速な人口減少期に入り、超高齢化も急激にすすむ

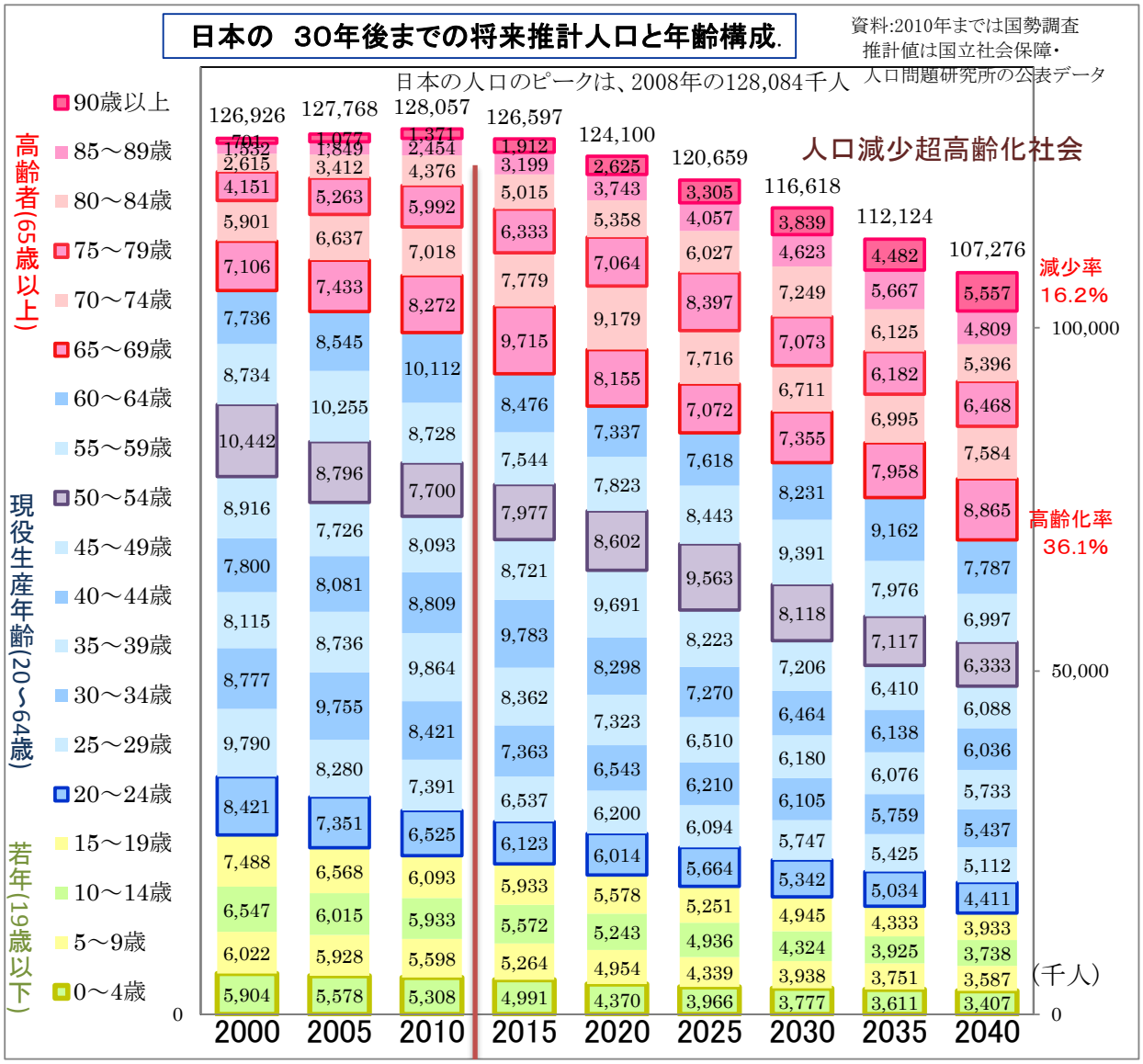
1 生産年齢人口・若年人口の激減により 急激な人口減少がすすむ

- 生産年齢人口は人口減少以上に激減　2010 年 7,564 万人が 30 年後に 5,393 万人へと 29%減少
  なかでも 20～49 歳の青壮年層が激減　2010 年 4,910 万人が 30 年後に 3,282 万人へと 33%減少
- 出生数と若年人口の減少　2010 年 2,293 万人が 30 年後に 1,467 万人へと 36%減少
- 人口のﾋﾟｰｸは 2008 年 12,808 万人、2020 年 3%減 12,410 万人、2040 年 10,728 万人の **16%減少**
- 出生率が 2.07 に回復しなければ、いつまでも減少し続ける　（減少社会ﾘﾎﾟ No.1）
- 出生率が回復しても、出産世代人口の縮小により人口減少の歯止めには長い年月が必要

2 生産年齢人口・若年人口が激減するなかで 高齢者人口は増加して超高齢化がすすむ

- 高齢者人口の増加　2010 年 2,948 万人が 30 年後に 3,868 万人へと 31%増加
  なかでも後期高齢者が激増　2010 年 1,419 万人が 30 年後に 2,230 万人へと 57%増加
  特に 85 歳以上の高齢者の激増　2010 383 万人が 30 年後に 1,037 万人へと 2.71 倍に増加
- 要介護認定者の激増(減少社会ﾘﾎﾟ No.2) 2010 年 510 万人が 30 年後に 969 万人へ 1.94 倍に増加
- 高齢者比率が激増して超高齢化社会がすすむ　2010 年 23.0%が 30 年後には**高齢者比率 36.1%**に
- 高齢者人口とこれを支える生産年齢人口の比率が激変　2010 年 1 人:2.6 人、30 年後 1 人:1.4 人

お神輿型→　騎馬戦型→　肩車型



Ⅱ 30 年後の総人口の減少は１６%、大都市圏と地方の間で格差が一層拡大

図3

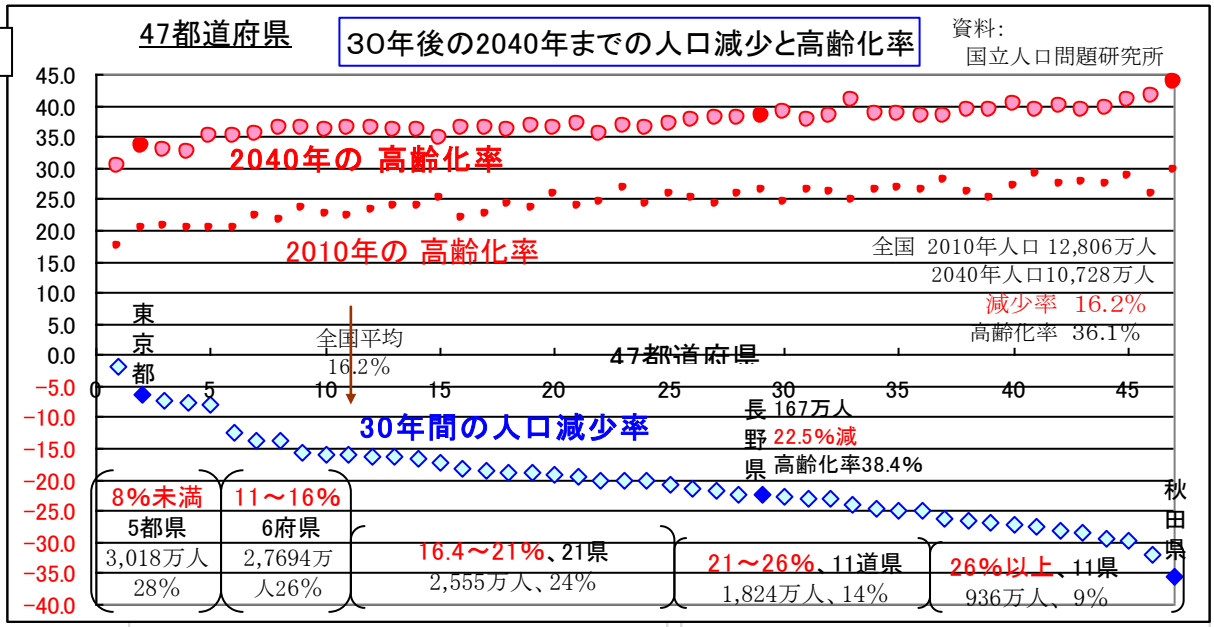


表4

人口減少率の小さな都府県（2010～40）

		2040年の人口	30年間の人口減少率	2040年高齢化率
1	沖縄県	1,369,408	-1.7	30.3
2	東京都	12,307,641	-6.5	33.5
3	滋賀県	1,309,300	-7.2	32.8
4	愛知県	6,855,632	-7.5	32.4
5	神奈川県	8,343,495	-7.8	35.0
6	埼玉県	6,304,607	-12.4	34.9
7	福岡県	4,379,486	-13.7	35.3
8	千葉県	5,358,191	-13.8	36.5
9	京都府	2,223,586	-15.6	36.4
10	大阪府	7,453,526	-15.9	36.0
11	宮城県	1,972,577	-16.0	36.2

人口減少率の大きい県（2010～40）

		2040年の人口	30年間の人口減少率	2040年高齢化率
37	山口県	1,069,779	-26.3	38.3
38	長崎県	1,048,728	-26.5	39.3
39	福島県	1,485,158	-26.8	39.3
40	徳島県	571,016	-27.3	40.2
41	島根県	520,658	-27.4	39.1
42	和歌山県	719,427	-28.2	39.9
43	山形県	835,554	-28.5	39.3
44	岩手県	938,104	-29.5	39.7
45	高知県	536,514	-29.8	40.9
46	青森県	932,028	-32.1	41.5
47	秋田県	699,814	-35.6	43.8

１ 東京都など上位５都県は１０%未満の減少で、大都市圏の人口減少はゆっくり

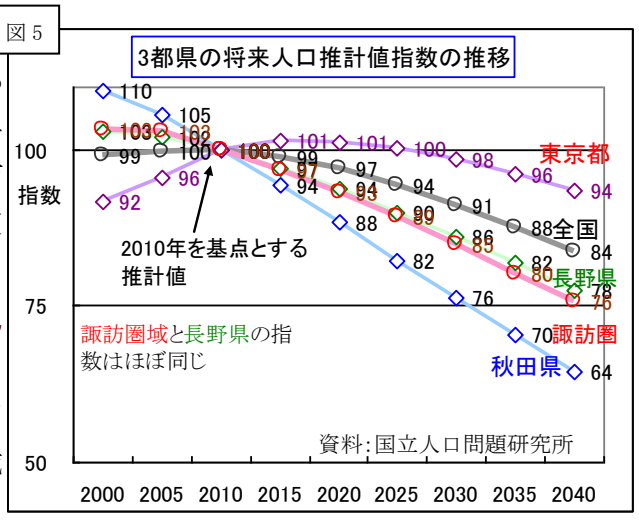
東京都はわずか 6.5%の減少に止まり東京大都市圏は全国平均より低い減少率である。東京都が減少に転ずるのは 20 年後の 2030 年のことになる(図 3)。大阪神戸京都大都市圏や、名古屋・福岡・仙台などの地方の中心都市のある県の人口減少も少ない。(図 1,表 2)

２ 地方では２５%以上の減少が１７県、その内２県は３０%以上激減する

20%以上減少する県が 31 道県あり、地方の大多数の道県では大きな人口減少にみまわれる。 青森県・秋田県は３０%以上で 50 年後の全国平均と同じ３分の２に減少する。(図 1,表 2,図 3)

３ ３０年後は３３.４%と極めて高い高齢化率

図 5



2040 年の高齢化率は 33.4%と 2010 年より 10%も上昇。各都道府県の高齢化率もほぼ同様に上昇し 30%～40%に集まるが人口減少の少ない大都市圏で低く、地方で高い。なかでも秋田県など５道県は 40%を越え、これに近い県も多数ある。

４ 人口減少社会が先行している地方では、それを見越した上での施策の見直しや振興策を

地方社会ではいち早く人口減少が顕在化しており、将来的に厳しい状況が予見される。人口減少社会や少子化への対策が中央で遅れているなかで、地方行政には減少を見越した上での施策の見直しや振興策への挑戦が求められている。

No. 2 － 2 頁

25. 12. 12　（10. 26）　矢島義恭

1位）秋田県の30年後までの「人口減少」と「超高齢化」

減少率最大の秋田県は 1980 年代のピーク以後人口減少が続き、「超高齢化」も急速にすすむ

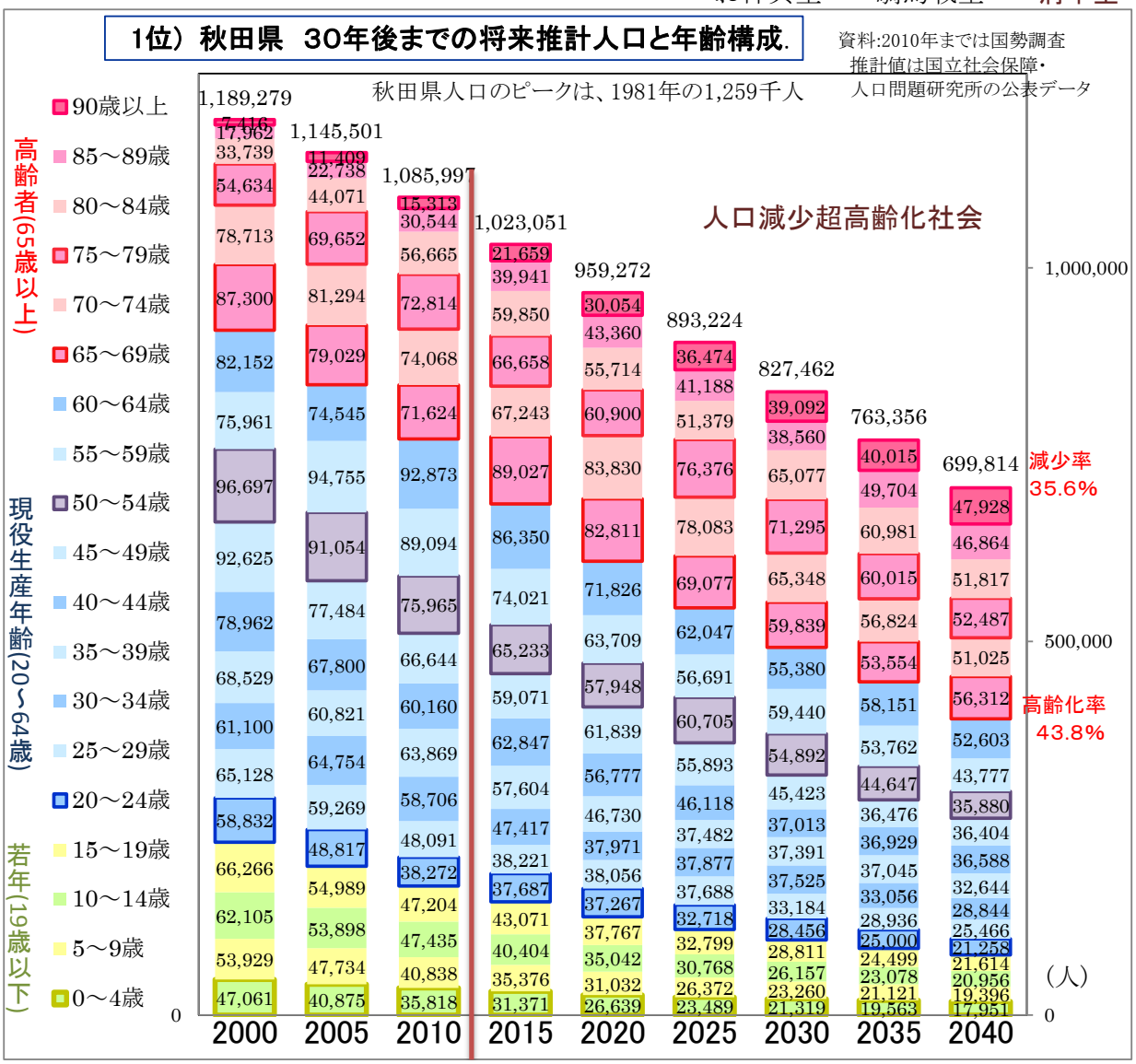
1 生産年齢人口・若年人口の激減により 急激な人口減少がすすむ

- ✓ 生産年齢人口は人口減少以上に激減　2010 年 593,674 人が 30 年後は 313,464 人へと **47%減少**
- ✓ 出生数と若年人口の減少　2010 年 171,295 人が 30 年後には 79,917 人へと **53%減少**
- ✓ 人口のﾋﾟｰｸは 1981 年 1,259,000 人、2020 年 959,272 人 24%減、2040 年 699,814 人 44%減少
- ✓ 出生率が 2.07 に回復しなければ、いつまでも減少し続ける　（減少社会ﾘﾎﾟ No.1）
- ✓ 人口減少の原因は出生率低下の他に、出産年齢女性の減少と高卒後若者の大都市流出がある。
- ✓ すでに 30 年間減少が続き、30 年後の減少率は全国 16%に対し秋田県は **35.6%減少と極めて高率**

2 生産年齢人口・若年人口が激減するなかで 高齢者人口は増加して超高齢化がすすむ

- ✓ 高齢者人口の増加、　2010 年 321,028 人　2020 年には 11%増加しその後はゆるやかに減少
  2040 年には 306,433 人となり、生産年齢人口 313,464 人とほぼ同数
  特に 85 歳以上の高齢者が激増　2010 年 45,857 人が 30 年後は 94,792 人へ 2.07 倍に増加
- ✓ 要介護認定者の激増(人口減少社会ﾘﾎﾟ No.2)　右肩上がりに増加して 30 年後に 1.44 倍に増加
- ✓ 高齢者比率が激増して超高齢化社会が進行　2010 年 29.6%が 30 年後には高齢者比率 **43.8%**に
- ✓ 高齢者人口とこれを支える生産年齢人口の比率が激変　2010 年 1 人:1.8 人、30 年後 1 人:1.0 人

お神輿型→　騎馬戦型→　肩車型



46 位）東京都の30年後までの「人口減少」と「超高齢化」

「超高齢化」は急速にすすむが、人口減少率は低く微増微減の横ばいから減少へ

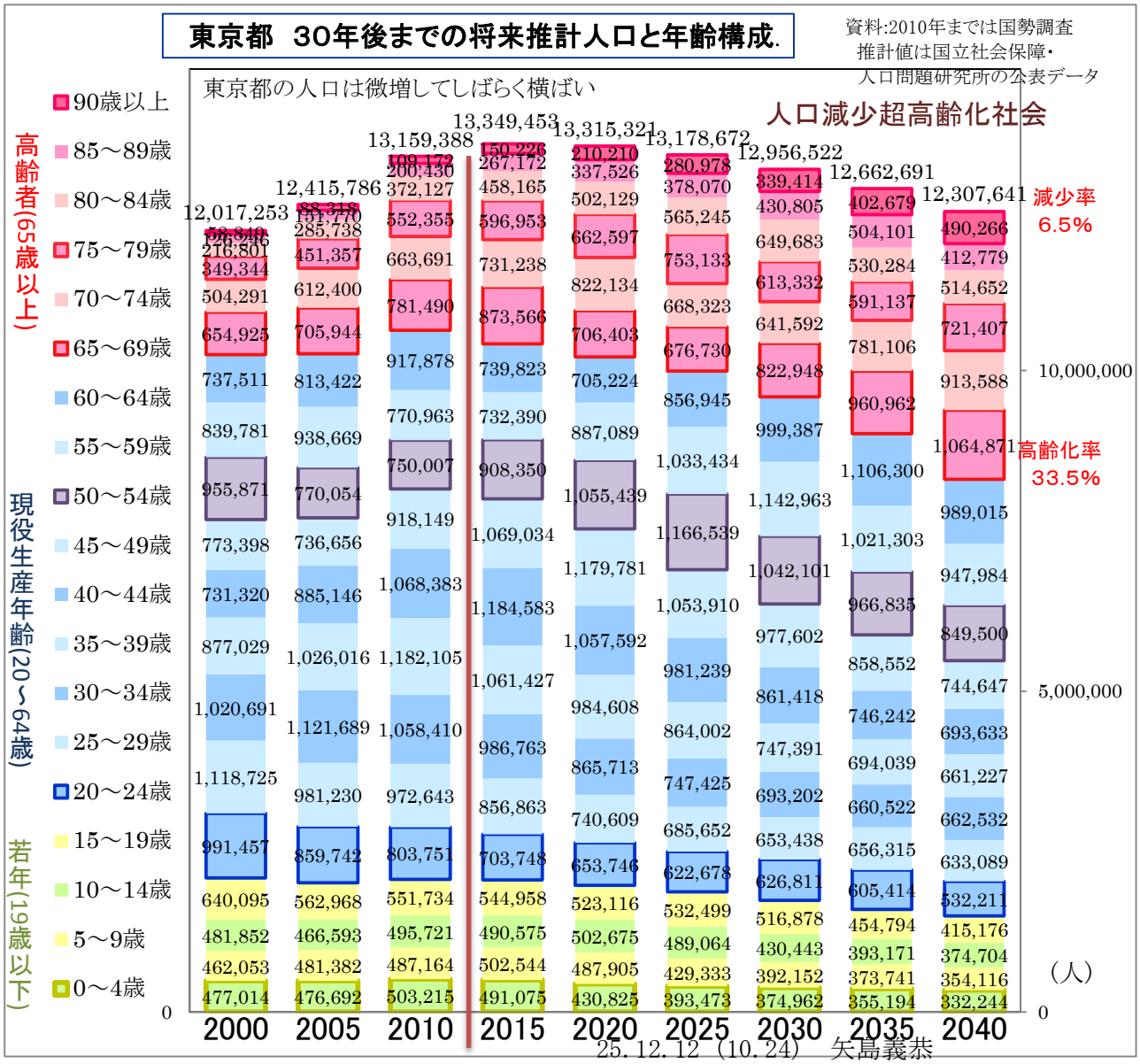
1 生産年齢・若年人口の減少が始まるが、人口はしばらく微増横ばいを続け やがて減少へ

① 生産年齢人口は人口減少以上に激減　2010 年 8,442 千人が 30 年後に 6,714 千人へと 20%減少
　なかでも 20～49 歳の青壮年層が減少　2010 年 6,003 千人が 30 年後に 3,927 千人へと 35%減少
② 出生数と若年人口の減少　2010 年 2,038 千人が 30 年後には 1,476 千人へと 28%減少
③ 人口は微増横ばいで、2020 年 13,315 千人で **1.2%増**、2040 年 12,308 千人で **6.5%減少**と小さい
④ 出生率が 2.07 に回復しなければ、いつまでも減少し続ける　（減少社会ﾘﾎﾟ No.1）
⑤ 若者などの大都市流入により、30 年間の全国の人口減少率 16%に対し東京都は６%減少と低率

2 生産年齢人口・若年人口が減少するなかで 高齢者人口は激増して超高齢化がすすむ

① 高齢者人口の増加、　2020 年には 21%増加し、その後も急増 30 年後は 54%の増加
　特に 85 歳以上高齢者人口の激増　2010 年 309 千人が 30 年後には 903 千人へと 2.92 倍に増加
② 要介護認定者の激増(減少社会ﾘﾎﾟ No.2)　右肩上がりに増加して 30 年後には 2.12 倍に増加
③ 高齢者比率が激増して超高齢化社会が進行　2010 年 20.4%が 30 年後には**高齢者比率 33.5%**に
④ 高齢者人口とこれを支える生産年齢人口の比率が激変　2010 年 1 人:3.2 人、30 年後 1 人:1.6 人

お神輿型→　騎馬戦型→　半肩車型



25. 12. 12（10. 24） 矢島義恭

19 位）長野県の30年後までの「人口減少」と「超高齢化」

すでに人口減少期に入っていて急速な「減少」がすすみ、「超高齢化」も急速にすすむ

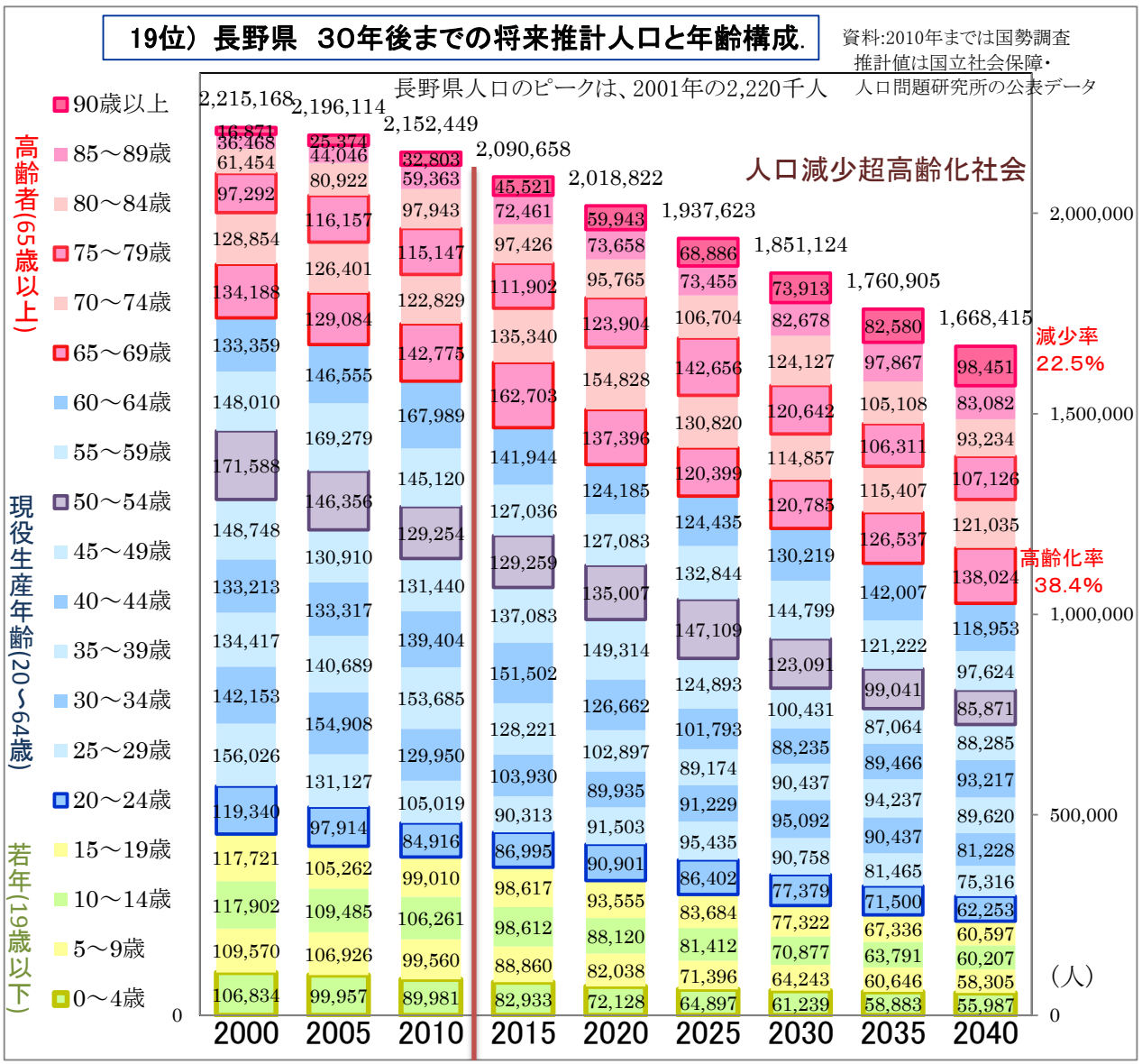
1 生産年齢人口・若年人口の激減により 急激な長野県の人口減少がすすむ

- ✓ 生産年齢人口は人口減少以上に激減 2010 年 1,186,777 人が 30 年後は 792,367 人へと **32%減少**
- ✓ 出生数と若年人口の減少　　2010 年 394,812 人が 30 年後には 235,096 人へと **40%減少**
- ✓ 人口のﾋﾟｰｸは 2008 年 2,220,208 人、2020 年 2,018 千人 9 %減、2040 年 1,668 千人へ **25%減少**
- ✓ 出生率が 2.07 に回復しなければ、いつまでも減少し続ける　　（減少社会ﾘﾎﾟ No.1）
- ✓ 人口減少の原因は出生率低下の他に、出産年齢女性の減少と高卒後若者の大都市流出がある。
- ✓ 人口減少期に入っており、30 年間の減少率は全国の 16%に対し長野県は **22.5%とかなり高率**

2 生産年齢人口・若年人口が激減するなかで 高齢者人口は増加して超高齢化がすすむ

- ✓ 高齢者人口の増加、　　2020 年には 13%増加しその後は横ばい
  特に 85 歳以上の高齢者が激増　　2010 年 92,166 人が 30 年後は 181,533 人へと 1.97 倍に増加
- ✓ 要介護認定者の激増(人口減少社会ﾘﾎﾟ No.2)　右肩上がりに増加して 30 年後には 1.53 倍に増加
- ✓ 高齢者比率が激増して超高齢化社会が進行　　2010 年 26.5%が 30 年後には高齢者比率 **38.4%**に
- ✓ 高齢者人口とこれを支える生産年齢人口の比率が激変　2010 年 1 人:2.1 人、30 年後 1 人:1.2 人

お神輿型→　騎馬戦型→　**肩車型**



〔人口推計値ﾘﾎﾟｰﾄ No. 4 諏訪圏域編　の追加頁〕　　25. 12. 12（8. 5）矢島義恭

Ⅲ 諏訪圏域の３０年後までの「超高齢化」と「人口減少」　　「人口減少超高齢化社会」

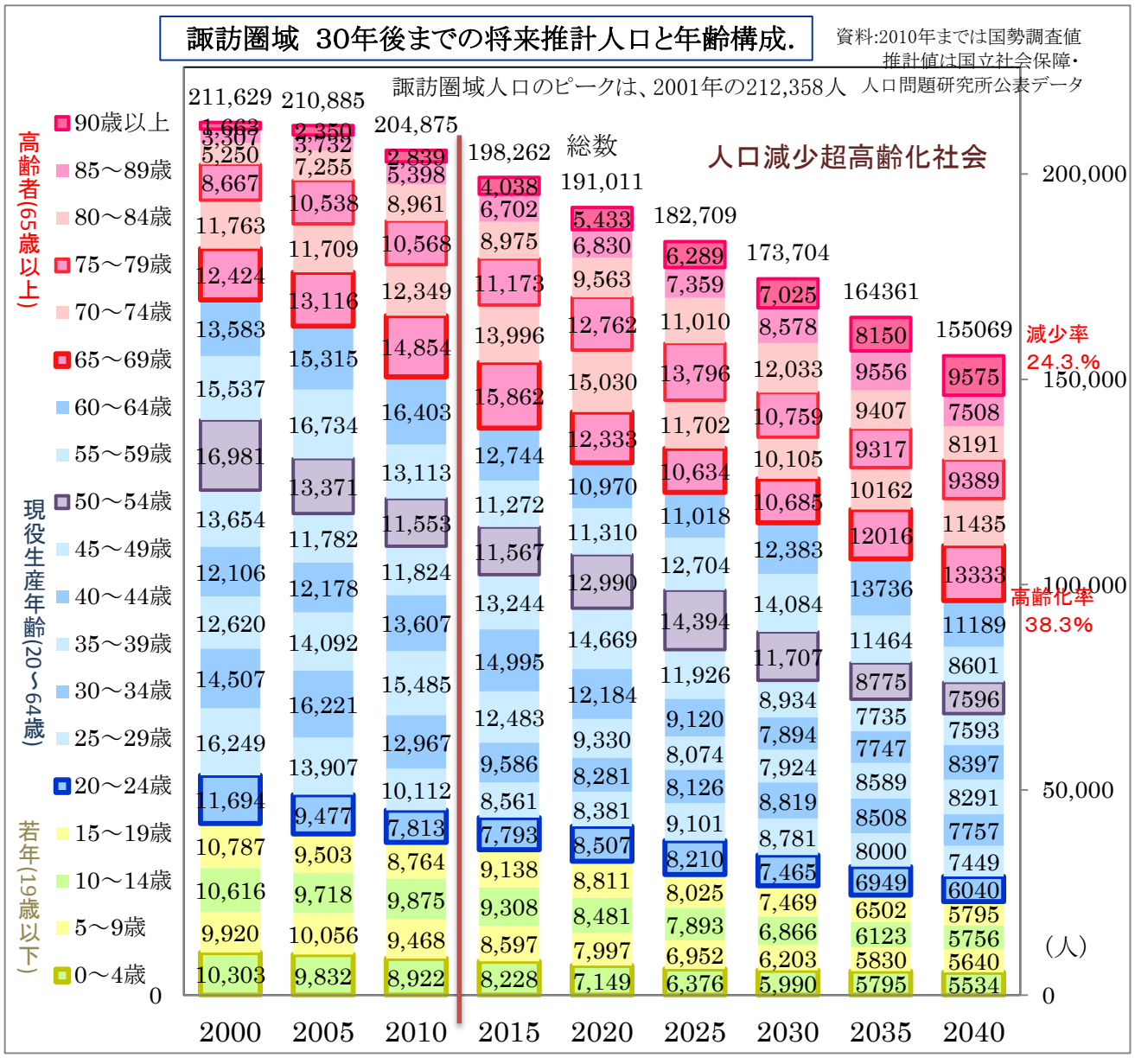
１ 生産年齢人口・若年人口の激減により 急激な人口減少がすすむ

- ✧ 生産年齢人口は人口減少以上に激減　2010 年 112,877 人が 30 年後には 72,913 人へと 35%減少
- ✧ 出生数と若年人口の減少　2010 年 37,029 人が 30 年後には 22,725 人へと 39%減少
- ✧ 人口のﾋﾟｰｸは 2008 年 212,358 人、2020 年 10%減 191,011 人、2040 年 155,069 人へ 27%減少
- ✧ 出生率が 2.07 に回復しなければ、いつまでも減少し続ける　（減少社会ﾘﾎﾟ No.1）
- ✧ 人口減少の原因は出生率低下の他に、出産年齢女性の減少と高卒後若者の大都市流出がある。
- ✧ 人口減少期に入っており、30 年間の減少率は全国の 16%に対し諏訪圏域は 24.3%とかなり高率

２　生産年齢人口・若年人口が激減するなかで 高齢者人口の増加により超高齢化がすすむ

- ✧ 高齢者人口の増加、　2020 年には 13%増加し、その後は横ばい
  特に 85 歳以上人口の激増　2010 年 8,237 人が 30 年後には 17,083 人へと 2.07 倍に増加
- ✧ 要介護認定者の激増（減少社会ﾘﾎﾟ No. 2）　2010 年 8,377 人が 30 年後 13,055 人へと 1.56 倍に増加
- ✧ 高齢者比率が激増して超高齢化社会が進行　2010 年 26.8%が 30 年後には高齢者比率 38.3%に
- ✧ 高齢者人口とこれを支える生産年齢人口の比率が激変　2010 年 1 人:2.1 人、30 年後 1 人:1.2 人

お神輿型→　騎馬戦型→　肩車型



25. 12.　9（9. 12）矢島義恭

諏訪市の３０年後までの「人口減少」と「超高齢化」

「人口減少超高齢化社会」が 急速に進行する

１ 生産年齢人口・若年人口の激減により 急激な諏訪市の人口減少がすすむ

⑥ 生産年齢人口は人口減少以上に激減　2010 年 28,975 人が 30 年後には 18,271 人へと 37%減少

⑦ 出生数と若年人口の減少　2010 年 9,330 人が 30 年後には 5,649 人へと 39%減少

⑧ 人口のﾋﾟｰｸは 2001 年 53,945 人、2020 年に 12%減 47,482 人、2040 年には 29%減の 38,349 人

⑨ 出生率が 2.07 に回復しなければ、いつまでも減少し続ける　（減少社会ﾘﾎﾟ No.1）

⑩ 人口減少の原因は出生率低下の他に、出産年齢女性の減少と高卒後若者の大都市流出がある。

⑪ 人口減少期に入っており、30 年後の減少率は全国の 16%に対し諏訪市は **25.1%**とかなり高率

３ 生産年齢人口・若年人口が激減するなかで 高齢者人口は増加して超高齢化がすすむ

⑤ 高齢者人口の増加、　2020 年には 13%増加しその後は横ばい(30 年後は 12%増)

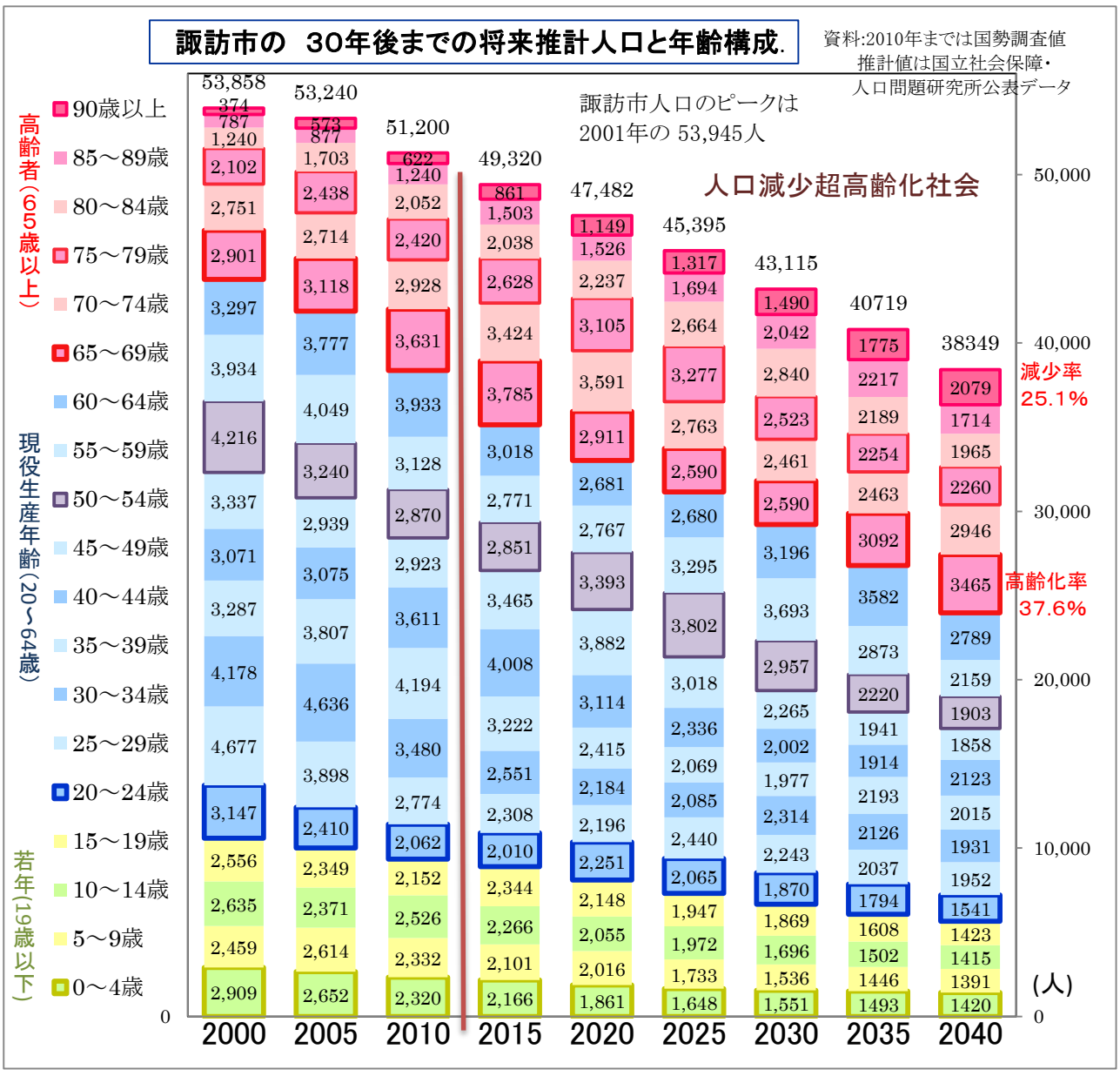
特に 85 歳以上高齢者人口の激増　2010 年 1,862 人が 30 年後には 3,793 人へ 2.03 倍に増加

⑥ 要介護認定者の激増(減少社会ﾘﾎﾟ No.2)　右肩上がりに増加して 30 年後には 1.56 倍に増加

⑦ 高齢者比率が激増して超高齢化社会が進行　2010 年 25.2%が 30 年後には高齢者比率 **37.6%**に

⑧ 高齢者人口とこれを支える生産年齢人口の比率が激変　2010 年 1 人:2.2 人、30 年後 1 人:1.3 人

お神輿型→　騎馬戦型→　肩車型



Ⅱ 総人口の増減の原因は、出生数と死亡数の差による自然増や自然減である

図 4

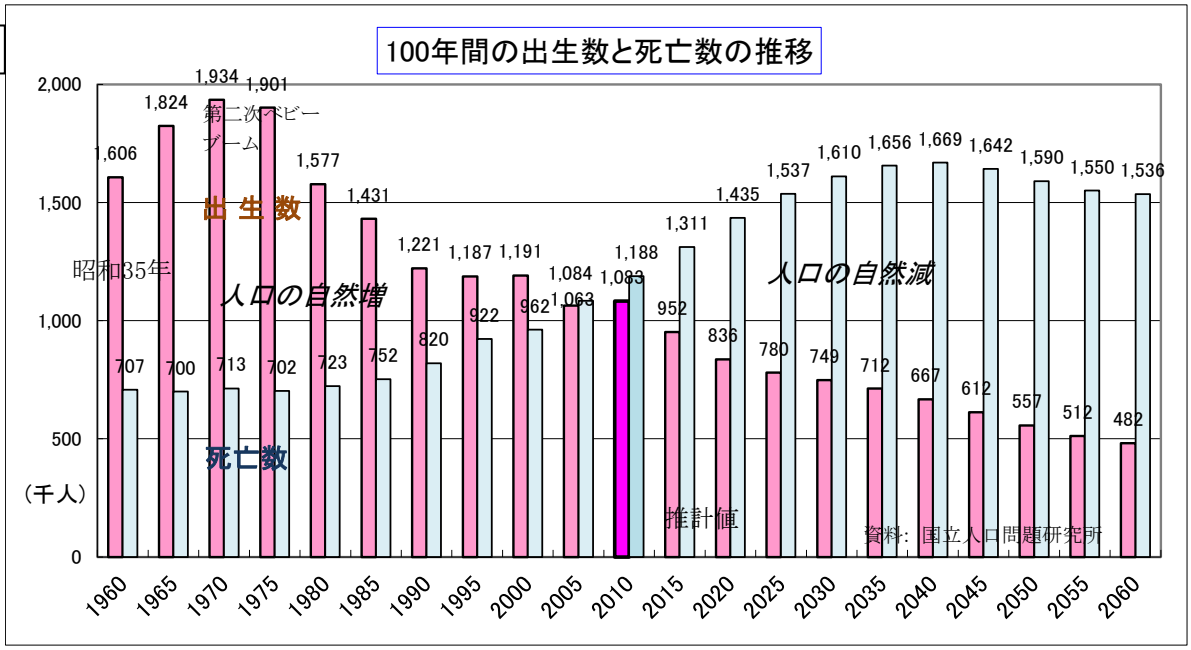


図 5

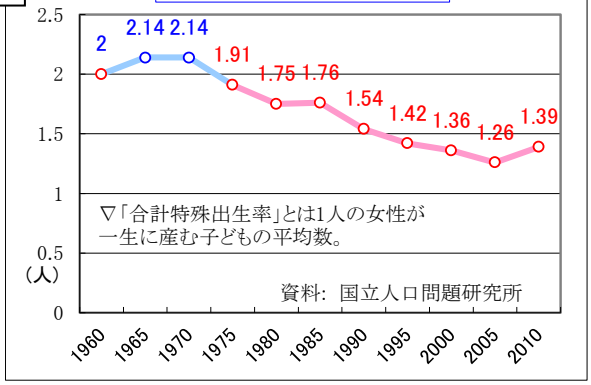


表 6

	合計特殊出生率	女性平均初婚年令	第1子平均出生年令	女性の生涯未婚率	女性平均寿命
1960	2.00	25.0	25.6	1.88	70.2
1965	2.14	24.8	25.9	2.53	72.9
1970	2.14	24.7	25.8	3.34	74.7
1975	1.91	24.5	25.7	4.32	76.9
1980	1.75	25.1	26.1	4.45	78.8
1985	1.76	25.8	26.5	4.32	80.5
1990	1.54	26.9	27.2	4.33	81.9
1995	1.42	27.7	27.8	5.1	82.9
2000	1.36	28.6	28.0	5.82	84.6
2005	1.26	29.4	28.6	7.25	85.5
2010	1.39	29.7	29.3	10.61	86.3

▽「生涯未婚率」は 50歳時の未婚率

1 外国人や日本人の出入国による人口の社会増減は小さい

外国人人口は 160 万人前後であり、出入国の差による人口の社会増減は小さい。外国人労働者の入国と定住が多く、時には大きな社会問題となる欧米先進国と異なる島国日本の特色である。

2 少子化による出生数の減少が人口減少の第一の原因である

死亡数の推計値を変えることは不可能に近いが、適切な少子化対策ができれば出生数を推計値より増やすことは可能である。しかし人口減少に歯止めをかけるには長い年月を必要とする。

A 「合計特殊出生率」の低下が、少子化＝出生数の減少の一番目の原因である

合計特殊出生率は 1 人の女性が一生に産む子どもの平均数で、長期的には 2.07 を上回れば自然増、下回れば自然減になる。しかし短期的には死亡数が少なければ直ちに自然減とはならない。低下の原因は女性の未婚化、晩婚・晩産化、結婚した女性の産む子ども数などである(表 6)。

B 出産期女性人口の減少が、少子化＝出生数の減少の二番目の原因である

出生数の減少は、約 30 年後にはそのまま出産期女性人口の減少となり、その時期の出生数の減少につながる。合計特殊出生率の低下と出産期女性人口の減少の相乗的な働きで、出生数は(図 4)のように長期的な先細り〔少子化〕傾向になった。

3 高齢者人口の増加で死亡数が飛躍的に増加したことが人口減少の第二の原因である

長寿化やベビーブーム期人口の高齢化により高齢者人口が増加し、長寿化で抑えられていた死亡数が急増して出生数を上回り（図 4）、人口は自然減局面に入り長期的な人口減少を招くに至る。

4 日本社会の先細りはすでに 1970 年代や 1990 年代に予測されていたが、政治の怠慢から抜本的な対策が先送りされてきた。今が正念場という気概での少子化対策が求められる。

5

Ⅱ ６市町村は揃って人口減少し人口規模が小さくなるが、減少率には格差がある

図５

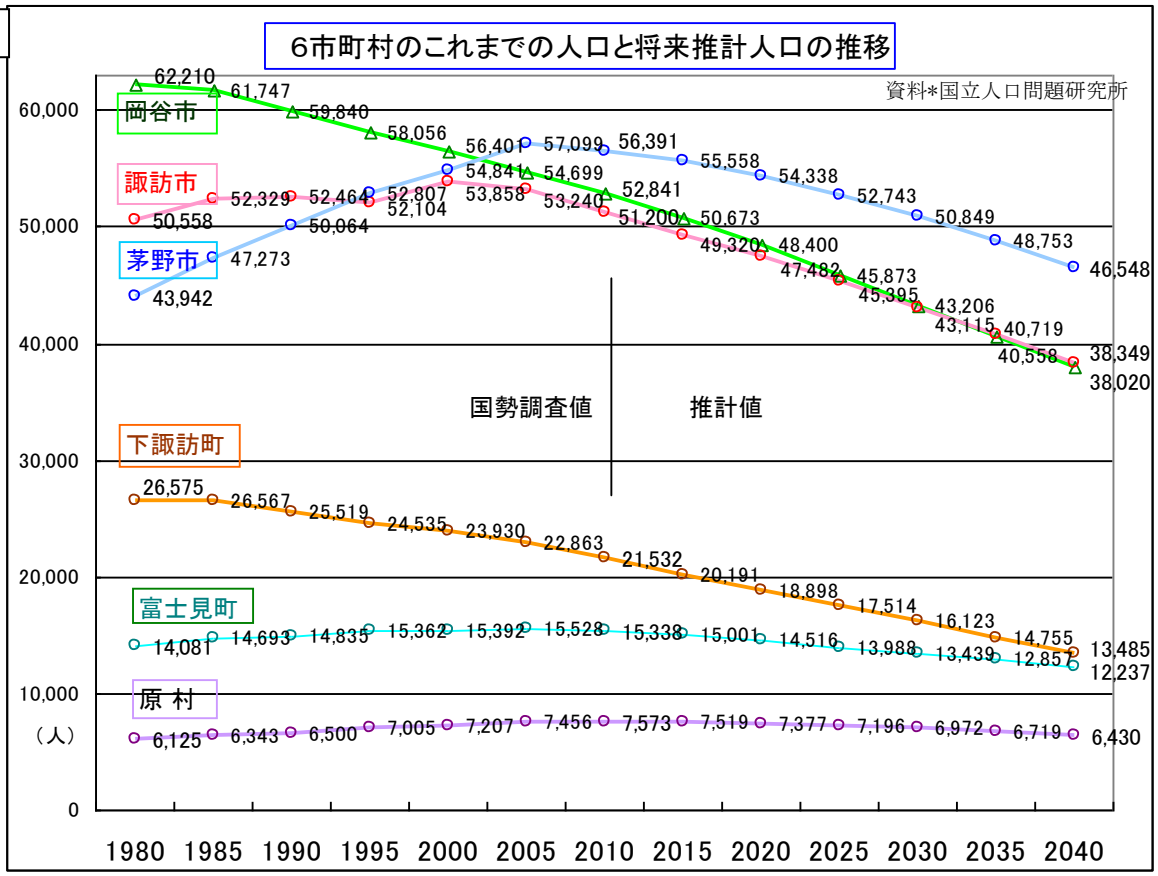


図６

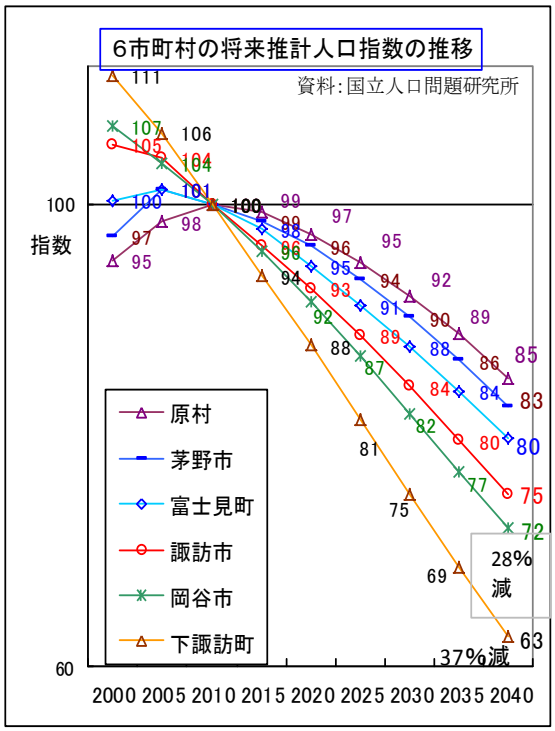


図７

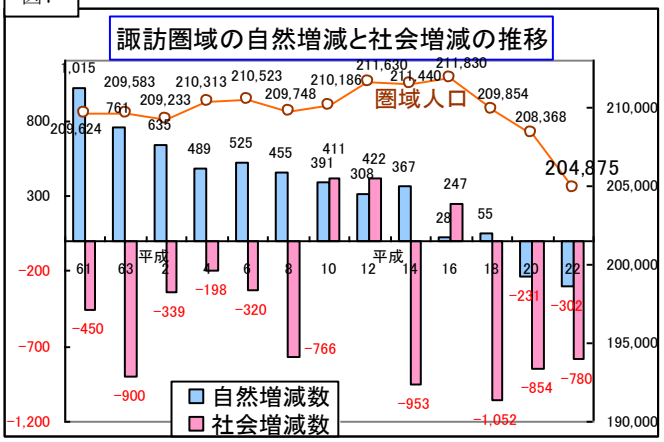
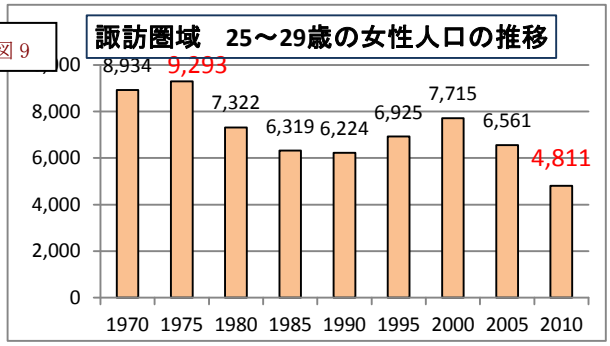


図９

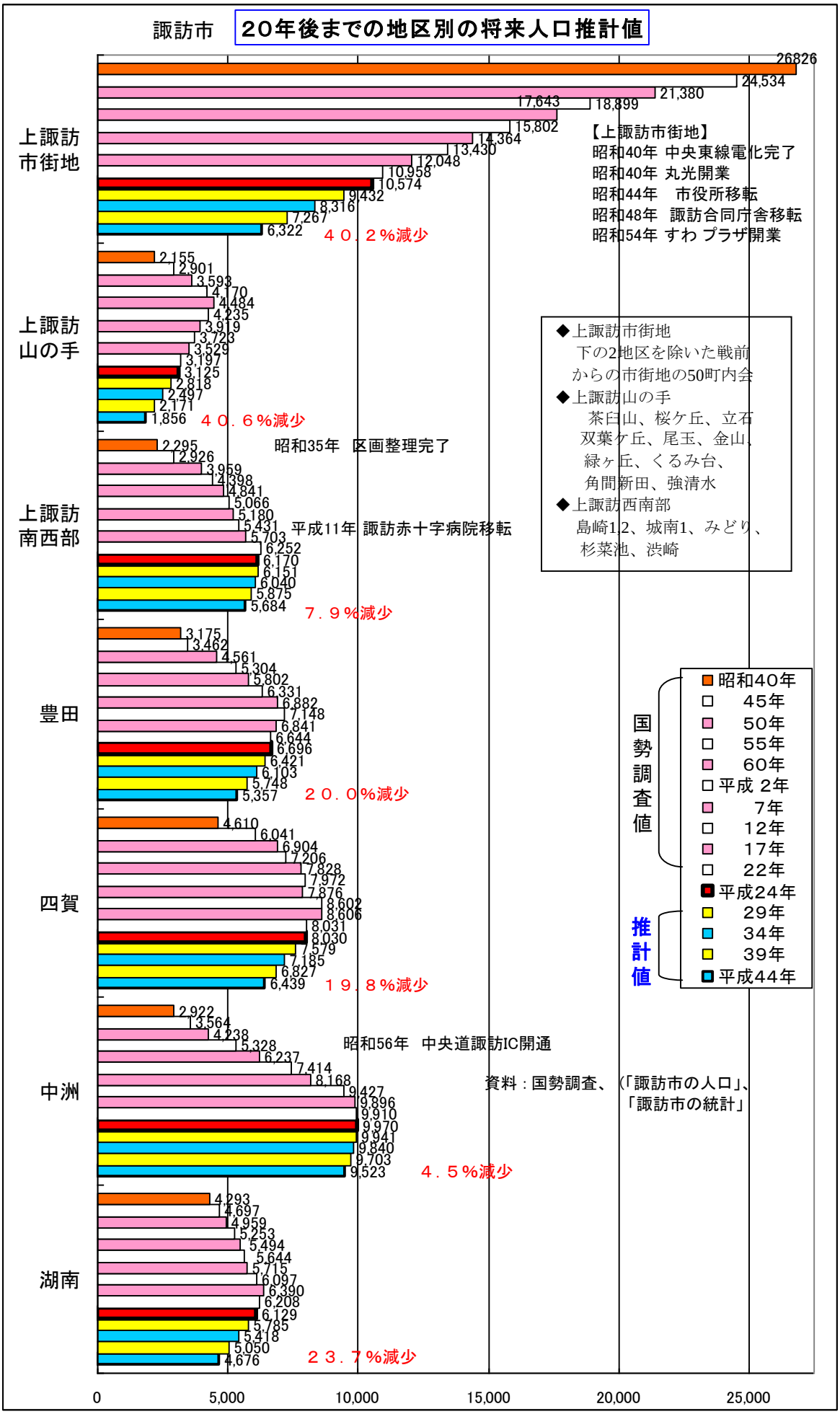


若者の流出率と高齢化率

表８

	2010年 25～29歳 人口	10～14歳 時と比較 減少率	2010年 高齢化率	2040年 高齢化率
岡谷市	2,425	25.1	28.4	38.3
下諏訪	936	27.8	32.6	43.9
諏訪市	2,768	3.6	25.2	37.6
茅野市	2,866	10.4	24.1	36.3
原村	328	30.5	26.9	40.6
富士見	756	23.5	29.9	40.9
諏訪圏域	10,080	16.5	26.8	38.3
長野県	104,461	19.8	26.5	38.4

諏訪市地区別人口の過去 45 年の推移と 20 年後までの将来人口推計値



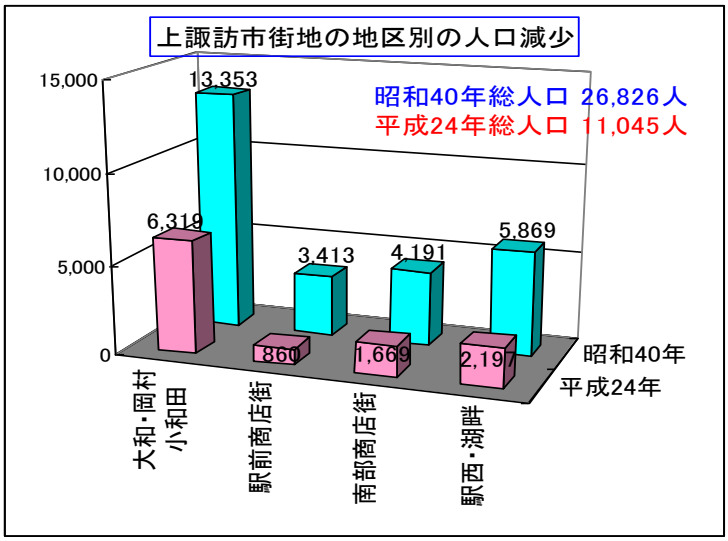
上諏訪市街地の激しい高齢化と人口減少

24. 10. 8 (7. 6)　矢島義恭

◇ 上諏訪市街地の範囲について

終戦の 1945 年までに形成されていた上諏訪市街地の 50 町内会を考察の対象とした。島崎 1,2 区は、1965 年(S.40)に人口は 1,940 人あり市街地の一角でしたが、その後西部水田の宅地化で現在の 3,458 人へと増加し、他の市街地町区とは地域性が異なるので考察の対象からはずしました。

[再掲] 上諏訪市街地と駅前商店街の 47 年間における人口激減と比重の低下



大和・岡村・小和田地区
　大和　〔大和・湯の脇・中村〕
　岡村　〔北澤・南澤・榊町〕
　小和田〔島崎・城南１・みどりを除く小和田地域〕
駅前商店街〔冨浜・浜町・本町・仲町・片羽・末広・和泉〕
南部商店街〔上町・柳町・桑原・伝柳・角間・清水・赤羽〕
駅西・湖畔〔大手・西大手・湖柳・中浜高島・衣の渡〕

	4地区	人　口			世 帯 数		1世帯当たり人数	
		昭和40年	平成24年	人口の減少	昭和40年	平成24年	昭和40年	平成24年
上諏訪市街地	大和・岡村・小和田	13,353	6,319	53%減少	3,729	2,653	3.58	2.38
	駅前商店街	3,413	860	75%減少	952	398	3.59	2.16
	南部商店街	4,191	1,669	60%減少	1,115	703	3.76	2.37
	駅西・湖畔	5,869	2,197	63%減少	1,697	1,091	3.46	2.01
	合計・平均	26,826	11,045	59%減少	7,493	4,845	3.58	2.28
諏訪市全体		46,276	50,639	9%増加	12,178	20,753	3.80	2.46

(1) 諏訪市人口は９%増加したのに、上諏訪市街地人口は 59%減少し、半分以下の４１%に激減した

昭和 40 年の市街地人口 26, 826 人が 46 年後の平成 24 年には 11, 045 人へと激減した。この間、諏訪市全体の人口は９%増加している。市街地は、昭和 40 年には市全体人口の５８%と半数以上を占めていたが、平成 24 年には２２%を占めるにすぎず、その比重が著しく低下した。

(2) 駅前商店街の人口は７５%減少し、２５%と４分の１に激減した

昭和 40 年の駅前商店街の人口 3, 413 人が、46 年後の平成 24 年にはわずか 860 人へとわずか２５%に激減した。駅前商店街の衰退とその振興は長年の課題であったが、各種対策をすすめてきたにもかかわらず、その人口がここまで減少した原因について分析をすすめる必要がある。

(3) 住宅地域の人口はほぼ半減した

大和湯の脇・岡村・小和田地区は農家も少なく住宅地域であるが、人口は５３%減少しほぼ半減。住宅の多い南部商店街や駅西・湖畔などでは６０%前後減少したが、駅前ほどひどい減少ではない。

(4) 市街地の世帯数は６５%に減少したが、人口の減少ほど酷くはない。

(5) １世帯の家族数は著しく減少したが、2.3人前後で市全体や地区の間で大きな差はない昭和 40 年には３．５人前後であった１世帯あたり家族数が、平成 24 年には２．３人前後へと著しく減少した。これは全国的な傾向でもあり、市内でもそれほど大な差はない。超高齢社会で高齢者が多くなり、高齢者の多くが夫婦だけや一人暮らしをするようになった結果である。

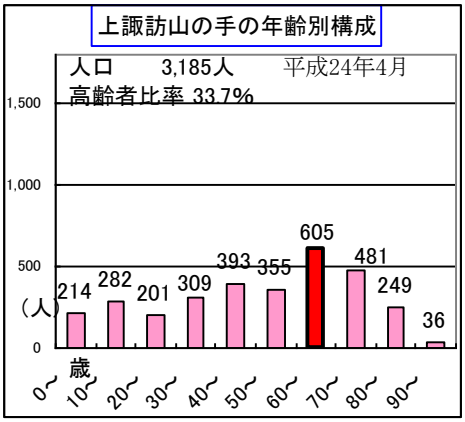
東部地区
公民館だより

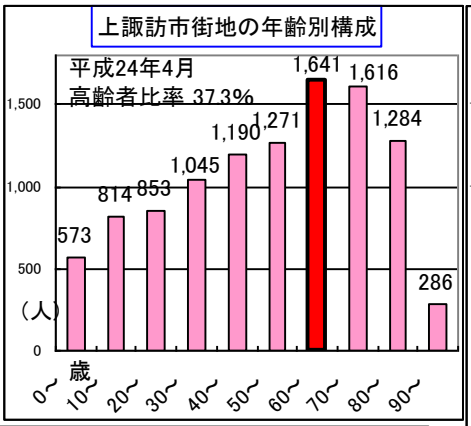
上諏訪地区の人口減少と少子高齢化の進行

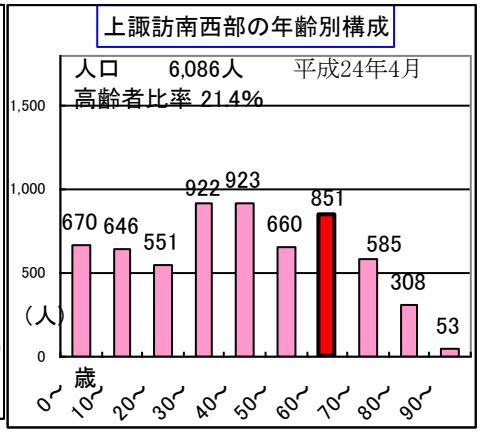
昨年８月に東部地区の高齢化と人口減少の資料を出しましたが、今回は上諏訪地区全体についてのデータをご紹介します。東部地区の動きは上諏訪全体の動きと連動しています。

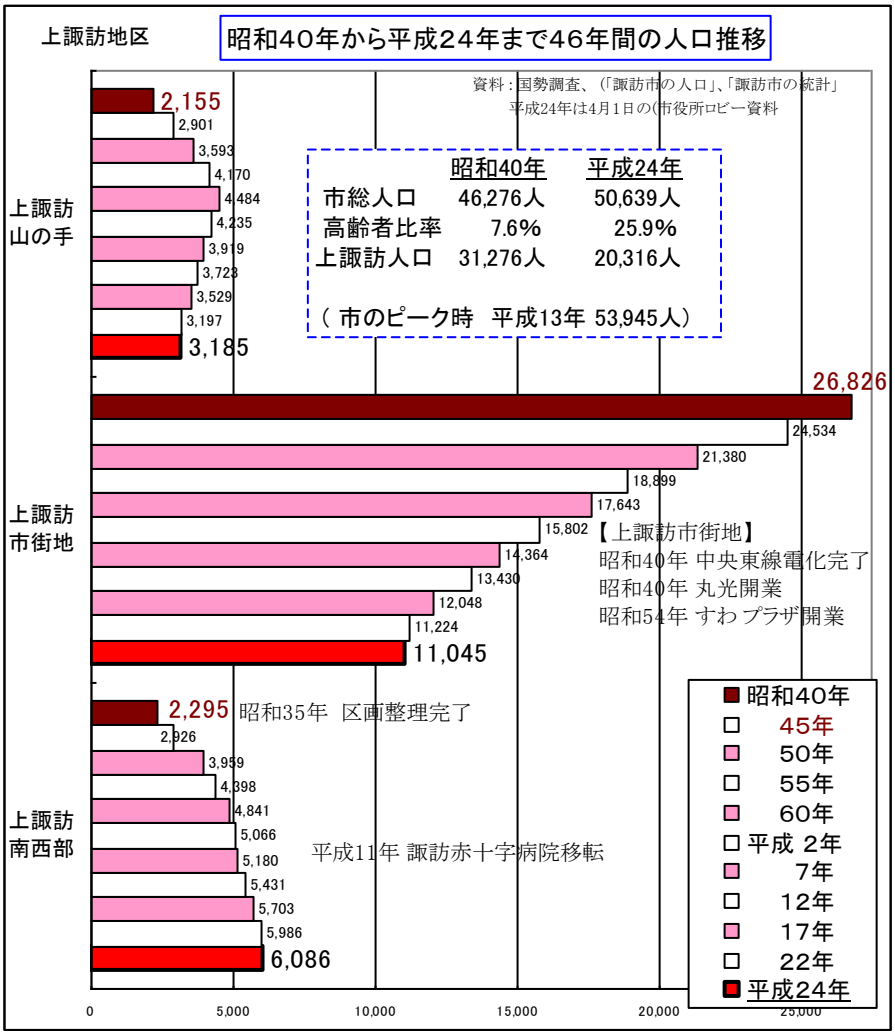
◆少子高齢化の進行　高齢化率では上諏訪市街地が３７.3%、山の手が３３.7%と３人に一人以上が高齢者で、６０歳以上の人数が非常に多いのが特徴です。これにひきかえ、水田の宅地化や商業地化がすすむ南西部地区では 30 歳,40 歳代の人口が多く、子ども世代の０歳～9 歳の人口は上諏訪市街地の人数を上回っています。　(注: 高齢者とは 65 歳以上の人)

◆上諏訪市街地や山の手地区の人口減少の進行　上諏訪市街地はここ 46 年間に 26,826 人から 11,045 人へと 59%、約６割も減少しました。住宅団地造成によって人口増加した山の手地区は、高齢化により同様に減少しています。少子高齢化のなかで人口減少はこれからも更に続きます。将来像をどう描きながら地域づくりを進めるか、地域の大きな課題です。





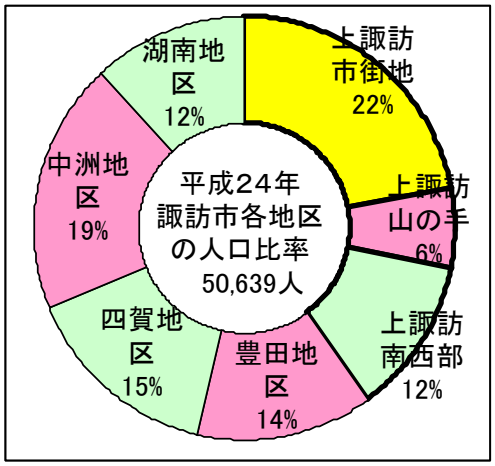




上諏訪地区の３区分

- **上諏訪山の手**
  双葉ケ丘、尾玉、金山、
  緑ヶ丘、くるみ台、
  角間新田、強清水
  茶臼山、桜ケ丘、立石、
- **上諏訪市街地**
  上と下の 2 地区を除いた
  戦前からの市街地 50 町内会
- **上諏訪南西部**
  島崎 1,2、城南 1、みどり、
  杉菜池、渋崎

平成 24 年の地区別比率



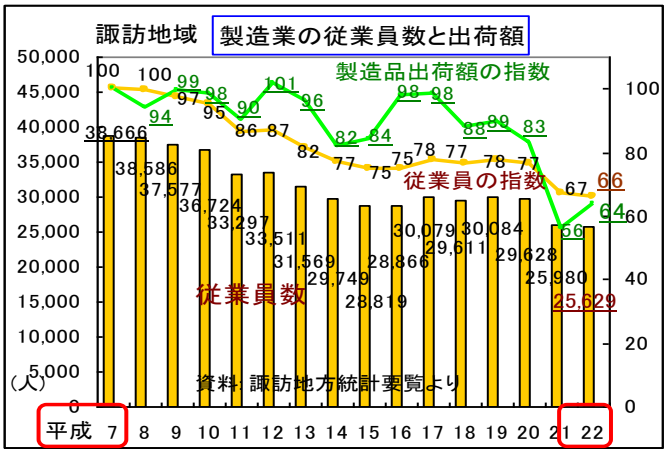
８．諏訪地域の産業の柱、製造業と観光業が近年衰退傾向にある（大観）

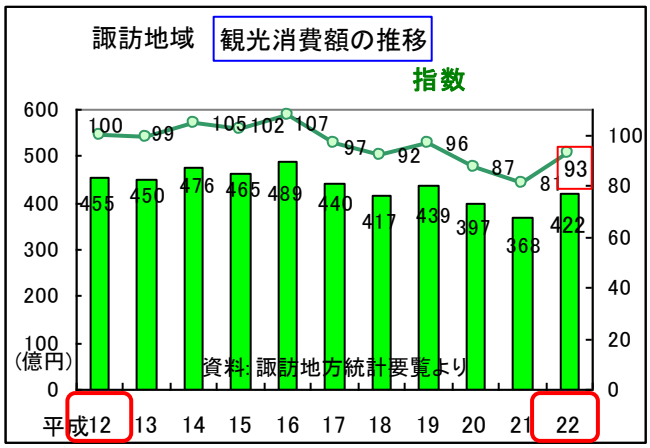
① 製造業では、従業員数が減少し続けてきて、平成 22 年には 7 年時の６６％前後に減少した。製造品出荷額は増減が激しく動いていたが、平成 18 年以後は減少し続け、平成 21 年には大きな落ち込みがあった。しかし、２２年には若干回復した。

② 観光業でも微増微減していた観光消費額が、平成 17 年以後減少傾向に転じ、一気に落ち込み続けている。平成 11 年に対し平成２１年の指数 81 は１９％の減少を示している。22 年は 54 億円増加しましたが、それは下諏訪町の温泉・諏訪湖が前年より 54 億円増加して３倍強になった増加分でその他は横ばいでほぼ前年並みでした。

③ 地域の産業の停滞は雇用力の後退となり、従業員の縮小や新規の雇用機会の後退となり、圏外に進学した若者が地域に回帰したくても就職の場が狭まり、Ｉターン者も少なくなる。

④ **社会減**の原因である産業基盤の変化の分析や考察は、識者によるリポートを期待したい。





諏岡茅野３市の人口と新設住宅着工戸数の特徴

24.　24.10.25
矢島義恭

図-１

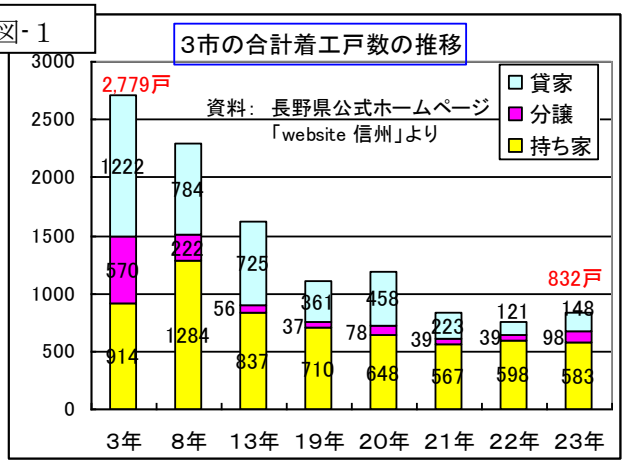


図-２

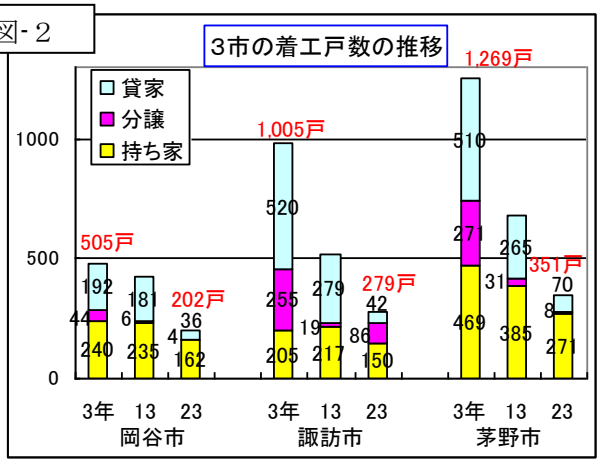
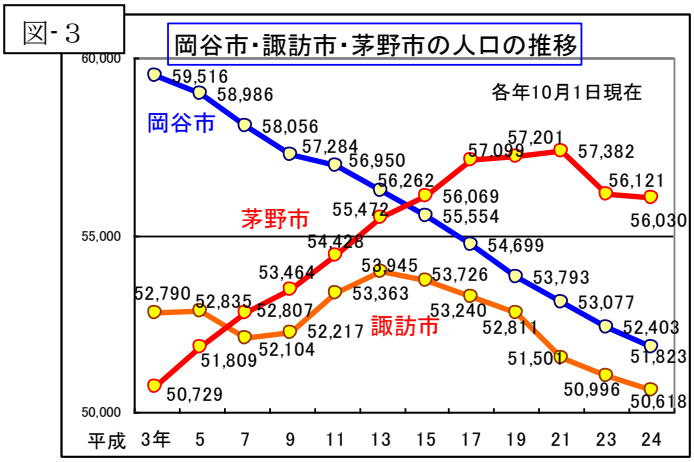


図-３



平成3年を基準(100)とした指数

		3年	13年	23年
着工全戸数	岡谷市	100	84	40
	諏訪市	100	51	28
	茅野市	100	55	28
内持ち家	岡谷市	100	98	68
	諏訪市	100	106	73
	茅野市	100	82	58
内貸家	岡谷市	100	94	19
	諏訪市	100	54	8
	茅野市	100	52	14

A　人口急増の茅野市、減少一途の岡谷市、横ばいの諏訪市
近年は、3市揃って人口減少期に入りました　〔図-3〕

＊　３市はいずれも５万人台の規模で、その合計人口はここ 20 年概ね１６万人前後で推移してきました。諏訪全域人口が減少期に入るなかで、近年は**いずれの市も人口減少期**に入り、その中で**高齢者人口の増加と子育て世帯人口の減少**がすすんでいます。

B　３市合計着工数は 20 年間で７０％も減少、貸家は激減、持ち家は半減〔図-1〕

＊　３市の合計着工戸数は平成３年に 2,779 戸あったのが、平成 23 年には７０％減少して、832 戸になりました。**近年の５年間をみても減少したまま**の横ばい状態です。

＊　**貸家の減少**が特に著しく、平成３年の 1,222 戸から**８８％も減少**し 23 年には 148 戸になりました。

＊　**持ち家の減少**は貸家より少なく 20 年間で**ほぼ半減**といった所です。人口減少期になっても、この 20 年間の岡谷市に見られるようにある程度の持ち家着工はなくなりません。

＊　**分譲住宅**も 20 年間で**激減**しましたが、近年は市街地に分譲マンションの建設がみられます。

C　茅野市と諏訪市では着工数が激減　〔図-2〕〔表〕

＊　**岡谷市**は人口減少のなか貸家が少なかったので、全体として**６０％の減少**に止まりました。

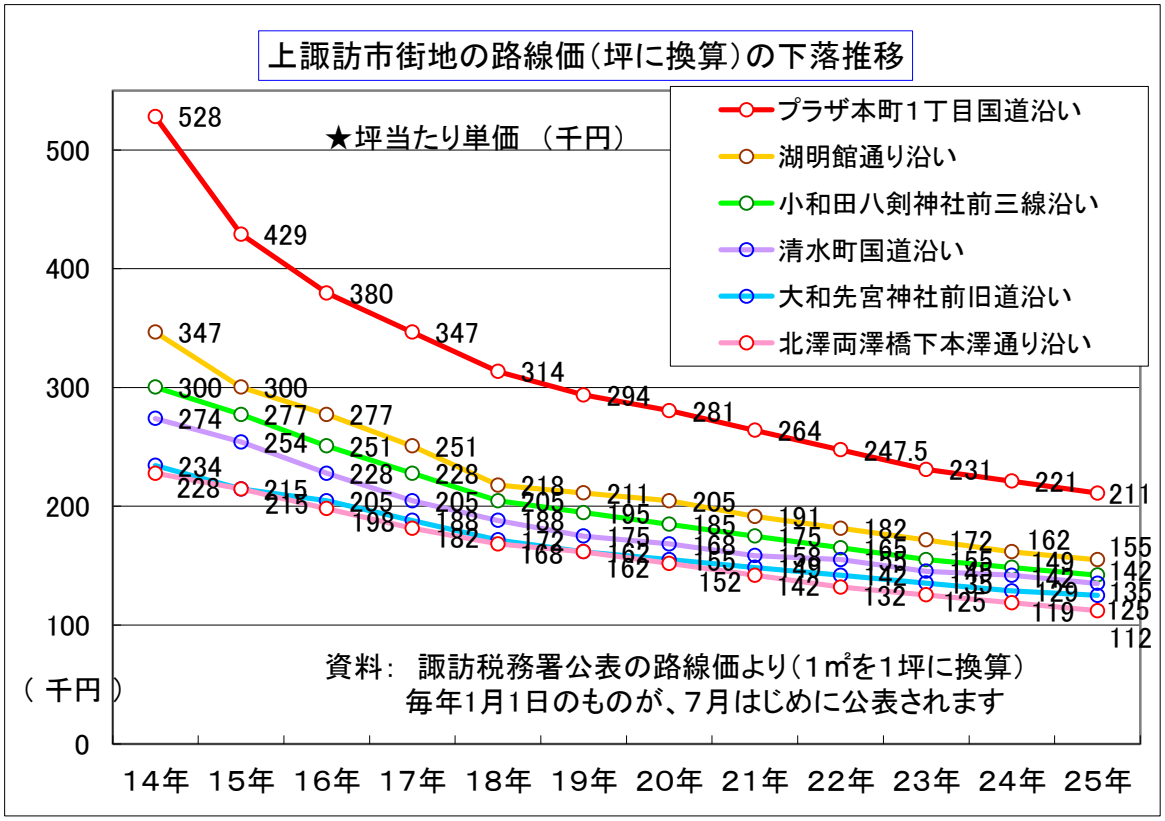
＊　**諏訪市**は水田地帯の商業地化と住宅地化で人口横ばいながら着工戸数が多かった。平成３年に約半数を占めていた貸家が激減し、着工全体としては**７２％も減少**しました。持ち家の着工はほぼ岡谷市と同じレベルで推移しあまり多くありません。

＊　**茅野市**は人口急増期における持ち家着工の多いのが特徴で、他の２市に較べ２倍前後ありました。しかし近年の持家の減少率は３市の中では一番大きく、平成３年に多かった貸家と分譲も激減したため、着工全体としては諏訪市同様に**７２％もの減少**になりました。

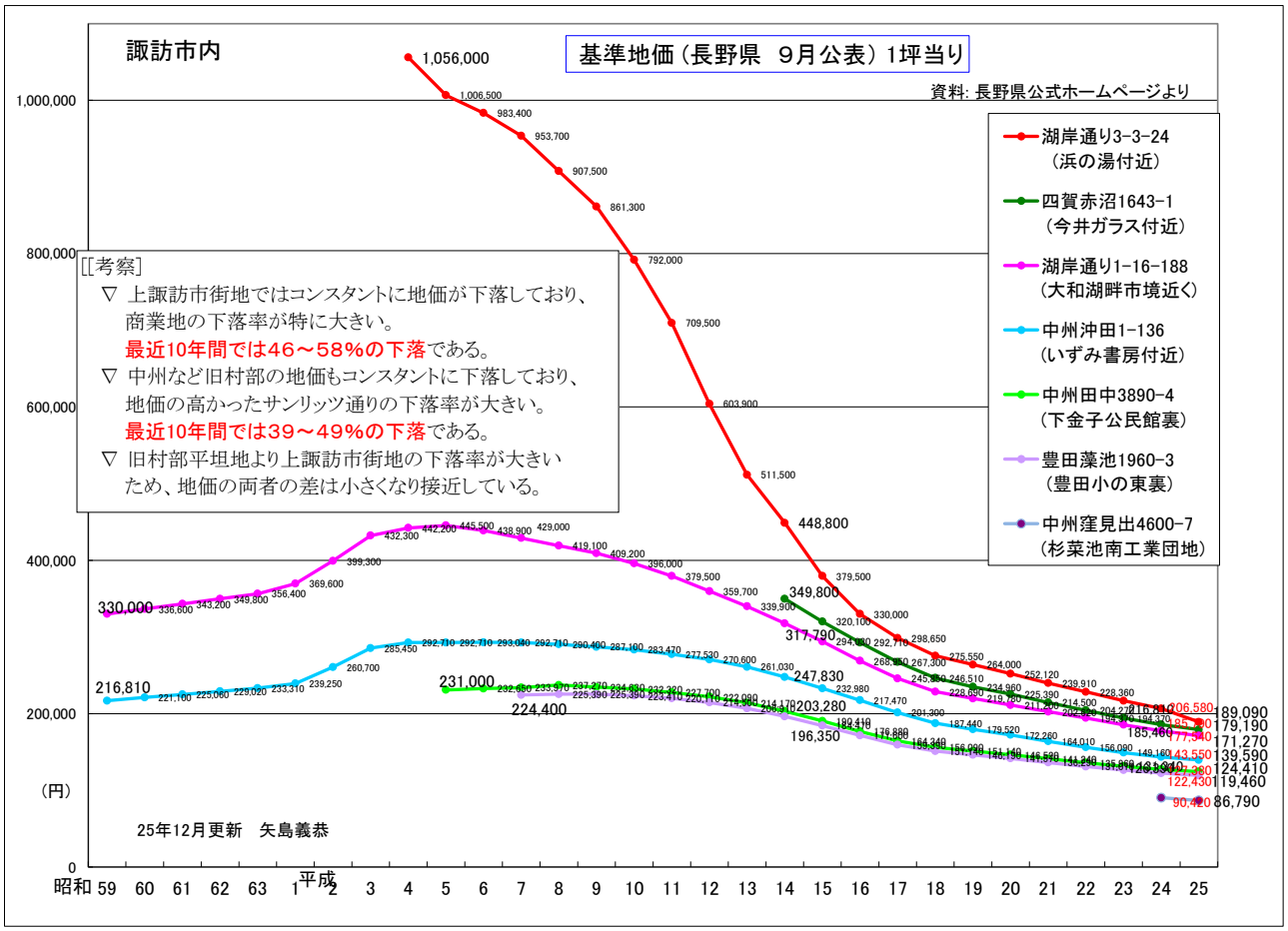
諏訪市内における近年の地価の下落

24.12.27　矢島義恭

◇人口減少の著しい上諏訪市街地の路線価下落　　10年間で概ね2分の1に下落した



◇市内各地の基準地価の推移を比較



〔人口減少社会ﾘﾎﾟｰﾄNo.2〕

大都市圏の高齢者数急増と、地方の介護負担の増加

地方では要介護認定者が増え介護負担が増大　25.7.17 (7.7)　矢島義恭

「要支援・要介護認定者」を「要介護認定者」と略記した。平成 22 年 10 月審査の厚労省データにより年齢別の出現率を算出し、これを用いて 30 年後までの要介護認定者数を推計した（図 3, 4, 5）。

1　東京大都市圏の高齢者数と要介護認定者の激増　　埼玉県、神奈川県、千葉県、東京都

埼玉県の 30 年後の高齢者数は 50%増で、神奈川県、千葉県もほぼ同じ数値である。要介護認定者は 2.5 倍と推計され、施設不足などの危機感が官庁やメディアで取り上げられている（図 1, 2）。

2　隣接県の高齢者数と要介護認定者の急増　　静岡県、群馬県、栃木県、茨城県の 4 県

1 都 3 県に続いて急増が推計されているのが隣接上記 4 県で、30 年後の高齢者が約 25%増、要介護認定者は約 80%増と推計される。4 県の数値はほぼ同じである（図 1, 2, 6）。

3　遠隔地方では高齢者は微増横ばいだが、要介護認定者は急増する　長野県、新潟県など

高齢者は 10%前後の増加に止まるが、要介護認定者は 60%前後まで急増と推計される（図 1, 2）。

図1

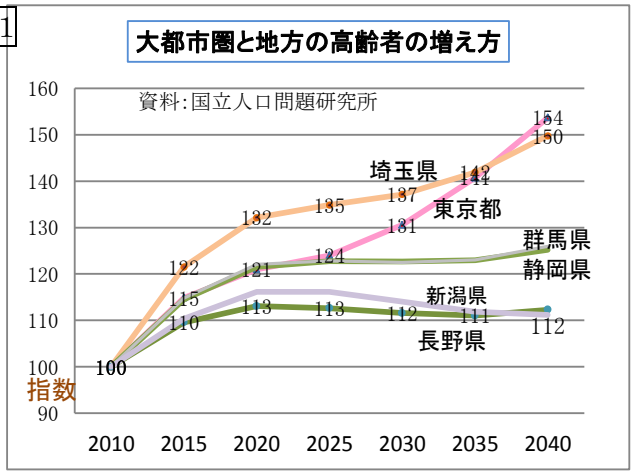


図 2

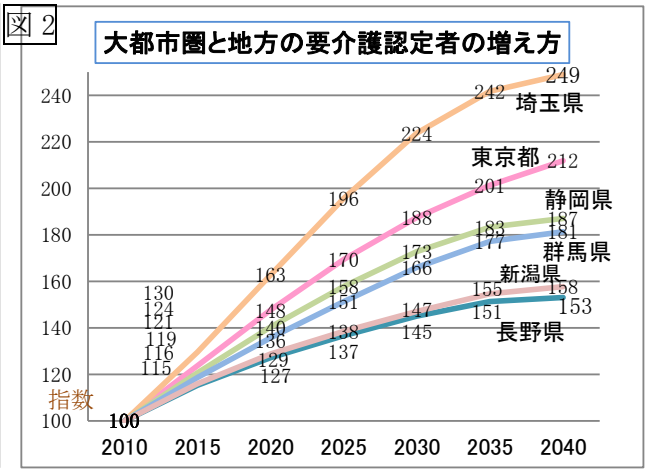


図3

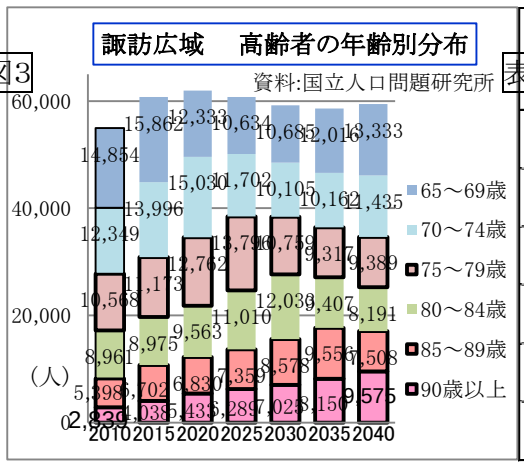
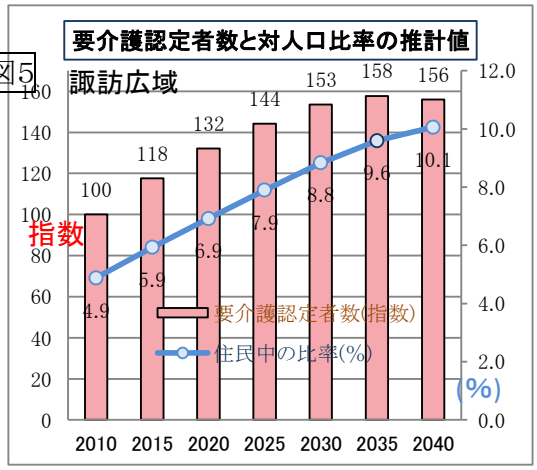


表4　要介護認定者の出現率（全国、2010年）

65～69歳	2.8%
70～74歳	6.2%
75～79歳	13.9%
80～84歳	28.4%
85～89歳	49.7%
90歳以上	74.7%

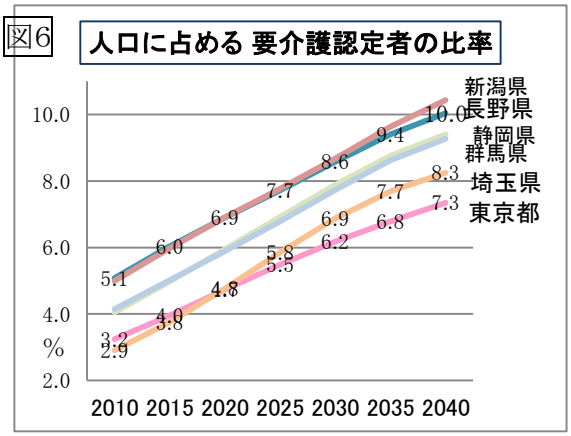
図5



4　地方も要介護認定者が急増し介護負担が激増

長野県や新潟県などの地方県は、要介護認定者の人口に占める比率は 2010 年でも約５％と大都会の２倍近く高いが、30 年後には 10%前後という高さになる(図6)。介護職員の確保や介護財政の困難さに現在でも苦しんでいるがそれが倍増する。大都市の介護施設を高齢者が増えない地方の県へという議論が始まっているが地方に余力があるだろうか。大都市圏では他力に頼らず地域での対応が求められる。

図6



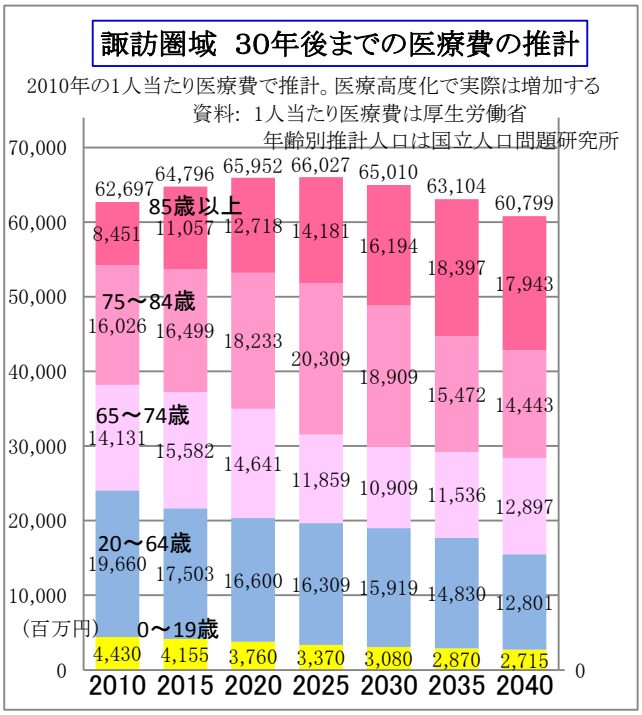
25.11.12（10.4） 矢島義恭

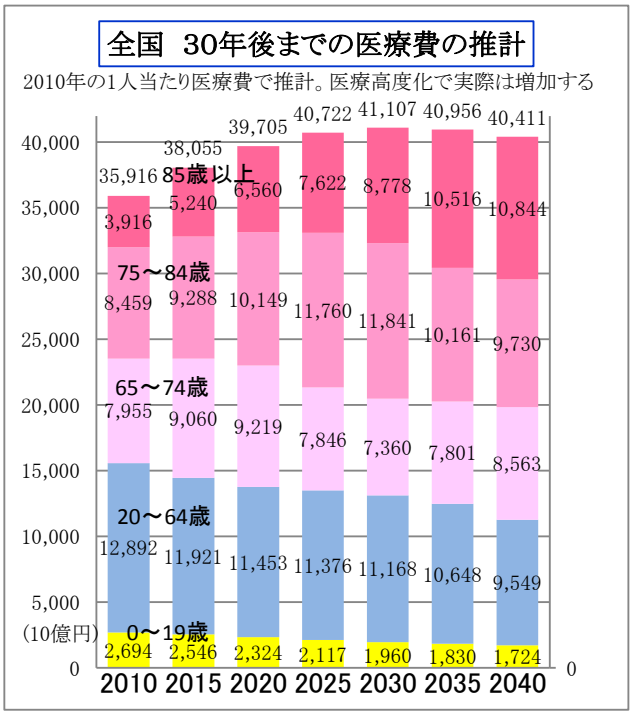
３０年後までの医療費の推計（諏訪広域）

人口は急減するが、医療費の必要な 80 歳以上の高齢者の激増により、医療費総額は増加する

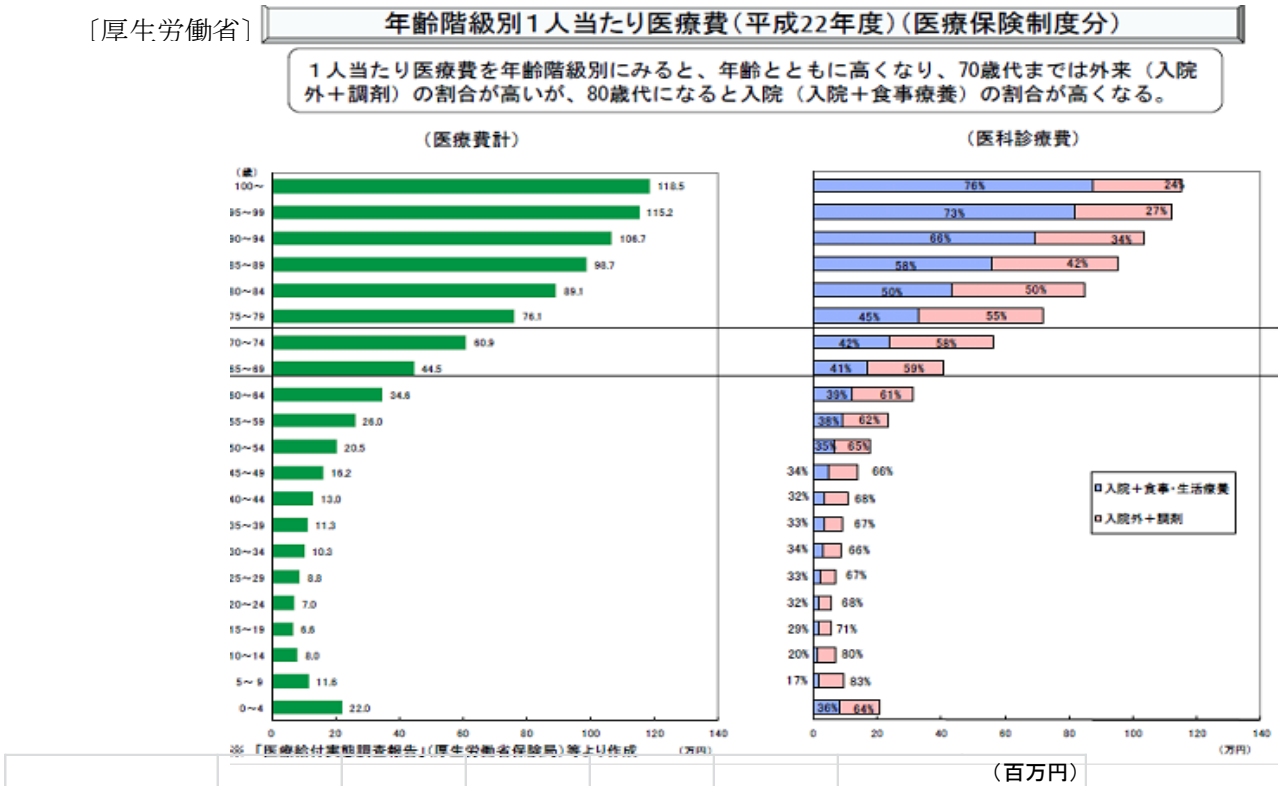
推計方法　各年の人口推計値をもとに、５歳階級１人当たり医療費（平成 22 年）を使い医療費を推計した。
「将来人口推計値」は、国立社会保障・人口問題研究所が平成 25 年に公表したものを使用した。
「５歳階級１人当たり医療費」は厚生労働省が公表している下図のデータ。

留意点　＊　１人当たり医療費は医療の高度化などによって、年々増加している（年１～２％位か？）。
＊　諏訪圏域の人口減少や高齢化は全国平均より約 10 年先行しており、すすみ方も早い。





〔厚生労働省〕



（百万円）

諏訪広域	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
入院関係推計値	26,999	28,586	29,703	30,316	30,421	29,996	29,144
指数	100	106	110	112	113	111	108

〔人口減少社会ﾘﾎﾟｰﾄNo.5〕

「人口減少超高齢化社会」がかかえる課題の素描（ﾒﾓ）

実効性ある少子化対策を希求しつつ、これを受容した対応の必要 26.2.20 (25.7.22) 矢島義恭

参照：（将来人口推計値ﾘﾎﾟｰﾄNo. 1～4）

◆ 日本総人口の永続的な減少　人口減少社会の到来　推計値は「国立社会保障・人口問題研究所」

- ﾋﾟｰｸは 2008 年 12,800 万人、30 年後は 16%減 10,700 万人、50 年後には 32%減の 8,700 万人
- 出生率が 2.07 に回復しなければ、永久的に減少し続ける　（減少社会ﾘﾎﾟ No. 1）
- 出生率が回復しても、出産期女性人口の縮小により人口減少の歯止めには長い年月が必要

◆ 年齢構成の激変　超高齢化社会の到来　生産年齢人口減少社会の到来

⑴ 生産年齢人口の減少　人口減少以上に高率　50 年後には半減
⑵ 高齢者人口の増加、　高齢化が進展し超超高齢社会に　50 年後には 40%に
⑶ 高齢者人口の生産年齢人口に対する比率が急上昇　お神輿型→　騎馬戦型→　肩車型
⑷ 出生数と年少人口の減少　合計特殊出生率の低下（2005 年が最低 1.26、2012 年は 1.41）

◆ 課題の素描

1　経済的な課題

⑴ 労働人口の減少　←　生産年齢人口の減少
⑵ 日本市場の縮小　旺盛な消費の主体の減少、経済規模や企業活動の縮小、投資の魅力縮小
⑶ 日本のＧＤＰの停滞から長期的には縮小へ　→　経済成長路線の限界
⑷ 国と自治体の財政　長期的な財政収入の縮減、財政規模のダウンサイズ、公共投資財のﾒﾝﾃ
⑸ 国と地方の長期債務の国民一人当たり負荷の上昇

2　社会的な課題

⑴ 人口減少と超高齢化、生産年齢人口減少が先行する地方の疲弊、大都市圏の高齢者人口の急増
⑵ 80 歳代 90 歳代高齢者の急増による死亡者・要介護認定者・医療費の急増（地方も例外でない）
⑶ 高齢単独世帯と夫婦のみ世帯の更なる増加　世帯構造の変化、高齢未婚者の増加
⑷ 小中高大の教育機関の過剰　←出生数・年少人口の減少
⑸ 地価の継続的な下落　←空き家の増加・新築着工戸数の減少　←住宅需要の減少
⑹ 元気な高齢者への社会的な役割の要請

3　医療制度の課題　後期高齢者の増加　（減少社会ﾘﾎﾟ No. 2）

⑴ 医療需要や費用の増加　70 歳以上で総医療費の 45%、内 75 歳以上で 35%（平成 23 年度）
⑵ 死亡者数の増加　看とり医療のあり方（ 病院 or 在宅）
⑶ 医療従事者の確保　←労働人口の減少

4　介護制度の課題　高齢者の増加以上に要介護者が増加　（減少社会ﾘﾎﾟ No. 2）

⑴ 介護サービス需要や介護費用の増加　介護施設の確保
⑵ 在宅介護と施設介護の見直し　包括的なサービスの必要性
⑶ 介護従事者の確保　←労働人口の減少

5　年金制度の課題　現行制度の破綻と困難な抜本的な改革の必要　格差社会の進展

日本は賦課方式をとっており、高齢者への給付を現役世代が負担

■ 「人口減少超高齢化社会」に希望がもてる展望は開けないものか

- たとえ少子化対策が成功しても、人口減少超高齢化社会の到来をさけることはできない。
- 未来社会へのﾏｲﾅｽｲﾒｰｼﾞだけでは子どもや若者、国民はスポイルされ、日本社会は混迷する。
- 逃げることなく受容したうえで、これに備える社会・経済・政治・思想的な対応が求められる。

以上

「縮む諏訪を元気にするには」グランドデザイン素描

26.2.11（24. 5. 9）矢島義恭

1-1 人口減少超高齢化社会の到来

➢人口減少が進む　・2010 年の諏訪圏域人口は 204,875 人、ピークより 7,500 人減少
・2020 年の推計人口は 2001 年のピークより 21,347 人、10%の減少
・2030 年の推計人口はピークより 38,654 人、18%の減少

➢超高齢化社会の到来　・高齢者人口の増加と要介護者の激増が続く
・生産年齢人口の激減が続く　・年少人口の激減(少子化)

1-2 人口減少超高齢化社会の課題

〔人口減少社会リポート No.5〕を参照

2-1 人口減少の原因

超高齢化で死亡数が多くなり自然減少を止めることは極めて困難

・死亡数の増加　平均寿命がのびて高齢者層が厚くなったが限りがあるため
・出生数の減少　① 出生率の低下（未婚化、晩婚化、晩産化）2.07 より低いと減少
② 少子化により出産期女性数の減少
・移動① 地域で育てた子ども世代が都市へ流出　2010 年は 16.3%減少（学卒後の若者）
② 他地域との間の移住（転入より転出が大きいと減少）　田舎暮らし移住など
③ 諏訪地域内での子育て期世帯の住宅取得などによる移動（市町村間の増減）

2-2 転入者の増加による社会増加は可能か メモ

➢ 新規産業を育成して雇用拡大を図ることが可能か ・地域循環地場産業 ・ｼﾙﾊﾞｰ産業
➢ 製造業での中小企業の育成　ものづくりの魅力ある環境を育てられるか
➢ 観光業の振興による雇用力増加の展望は
➢ 暮らやすく住みやすい街づくりによる、若者や子育て世代の U・I ターンの展望
➢ 田舎暮らし推奨による都会の中高年者の移住受け入れの展望は

3 諏訪の地域的な課題の鳥瞰 メモ

住みよく快適に 安心して暮らせる地域づくり

産業基盤の整備と育成〔雇用の確保・経済の活性化〕

製造業や観光業の振興

これまでの蓄積と集積を活かし

中小製造業の育成･誘致

ものづくりの伝統と集積

高品質、いやし、高消費

観光地の成熟化推進
旅を楽しめ満足感

自然・文化的観光資源豊富
ｲﾍﾞﾝﾄ、知名度、集客力
ホテル・旅館の集積
特急駅に隣接する観光地
上質有料の観光施設の創設

新たに
＜成長が期待できる産業＞
健康と老後の安心

医療と福祉分野の育成
長寿の里（長い健康寿命）
シルバー地場産業

福祉大学校・看護専門学校
温泉、東ﾊﾞﾙ跡地、住民の健康
諏訪赤十字病院、介護入所施設
ホテル・旅館、保養施設

松本と比較して
・高等教育関係の人口が少ない
・オフィス関係人口が少ない
・高級品小売業経営の困難さ
・物流の拠点として立地の困難さ
・大工場立地の土地の取得困難

商業地域振興

歩いて暮らせる街、個性的な店

駅周辺市街地の再生
暮らしやすい街のより所
便利でおしゃれで楽しめる

サービス業(医療・金融・飲食)
の集積、街路・歩道の整備
住民のﾆｰｽﾞをとらえたﾋﾞｼﾞﾈｽ

自家用車客中心

新興商業地の整備
日常生活用品購入で集客
専門店も多い商業ｾﾝﾀｰに

店舗面積が広くとれる
大型店・専門店の集積
品揃え豊富で安価な商品
圏域の中核商業地域に

「上諏訪市街地の再生にむけて」　検討提言メモ

24.12. 5　矢島義恭

	上諏訪市街地の人口推計値		
	人口(人	減少(人	減少率
1965 年	26,826		
2012 年	**10,574**	(16,252)	(-60.6%)
2022 年	8,316	-2,258	**-21.4%**
2032 年	6,322	-4,252	**-40.2%**

	上諏訪市街地の少子高齢化推計値	
	0 歳～49 歳人口 (子育て期家族)	50 歳以上人口 (子育ての終わった家族)
2012 年	4,475 人〔42%〕	6,099 人〔58%〕
2022 年	3,240 人〔39%〕	5,076 人〔61%〕
2032 年	2,193 人〔35%〕	4,129 人〔65%〕

◆　**人口激減の進行**　⇒　上諏訪市街地の地盤沈下

- 上諏訪市街地の 45 年前の昭和 40 年の人口は、２６，８２６人。現在はその 40%の人口規模。
- 現状のままでは、20 年後に諏訪圏域で **18.7%**の減少、諏訪市は **21.0%**の減少、上諏訪市街地は **40.2%**の減少。

◆ **少子高齢化の進行**　⇒　上諏訪市街地の地盤沈下

- 子育て期の若者は郊外へ。0 歳～49 歳の子育て期家族人口が少なく現在 42%を占めるにすぎないが、現状のまま進むと 20 年後には 35%へとさらに激減、人数的には半減してしまう。全国平均は 2011 年 57%、2030 年 46%なので、上諏訪市街地の比率は著しく低い。
- 子育ての終わった 50 歳以上の中高年世代が多く、現在でも 65 歳以上の高齢化率 37.3%という超高齢社会ですが 20 年後には 41.3%となり、50 歳以上人口は 50 歳未満人口の約 2 倍という超高齢の街となります。

◆上諏訪市街地の再生に向けて　人口減少をくい止めることは極めて困難だが

目標　現状の人口維持くらいを目標にできないものか。その為には

⑴　現状の先細りを打破して、子育て期世代が沢山移住してくること　主

⑵　まちなか暮らしに引かれた中高年世代や高齢者が移住してくること　従

活動「住みよい暮らしやすい街」として子育て期家族や中高年世帯の移住をはかる

⑴　上諏訪市街地の住みよさの確認と地域に向けての発信、継続的なＰＲ

- 子育て期家族にとっての住みやすさ、暮らしやすさの確認
- 中高年世代にとっての住みやすさ、暮らしやすさの確認

⑵　土地や住宅利用の流動性を高めて移住しやすい環境整備をはかる

- 老朽空き家の整理　宅地化、駐車場化
- 不動産情報の集約と提供
  - 中古住宅の再利用の可能性の検討
  - 高層マンションについての検討

⑶ 子育て期家族や中高年世代にとっての、住みやすさや暮らしやすさの更なる整備

組織　住民的な推進機関としての「街なか暮らし懇話会(仮称)」の活動

調査や検討　⇒　アイディア・提言　⇒　推進活動

関心のある多世代の住民を中心

更に、建築関係業者、不動産業者、商工業サービス業者、etc

以上

1　超高齢化した「上諏訪市街地の街づくり」への提言

16.3.29（3.1）　矢島義恭

▽「中心市街地の活性化」は、課題の違いに留意して「上諏訪市街地の街づくり」 と 「上諏訪市街地商店街の再生（活性化）」に分けて両面から検討することが望ましい

(1)「上諏訪市街地の街づくり」は、地域に暮らす生活者にとって「住みよい街づくり」が主たる課題

(2)「上諏訪市街地商店街の再生（活性化）」の主たる担い手や利害は、市街地の商業従事者であり、その経済活動のあり方と環境づくりが主たる課題

- 両者は対立するものではなく、**連携して推進**してこそ共に課題を達成できる

▽「上諏訪市街地」は超高齢化した　［参照「上諏訪市街地の高齢化と街づくり ～データ編～」］

- 人口の減少傾向が著しく、現状のままだとこれからも一層減少すると推計される
- 50 歳以上の高年者が５５％以上を占める高年齢社会になった
- 65 歳以上の「高齢者」が３３％と、３人に１人を占める超高齢社会である
- 高齢者の半数以上が、独居老人や高齢者夫婦など高齢者だけの世帯で暮らしている
- 晩婚化、晩産化、男女の未婚率の上昇により、少子化が進行している
- 市街地商店街の低迷と、地価の下落傾向（周辺住宅地価格との格差が縮小）

◆「高齢者が安心して心豊かにいきいきと暮らせる街づくり」を提言します

『誰もが住みよい街づくりを視野におきながら』

- 高齢者が安心して心豊かに暮らせる街（まち）づくり
  地域の生活者の視点からの「地域づくり」「地域計画」をめざす
- 高齢者もその担い手として、いきいき暮らせる街づくり
  高齢者は支援を必要とする弱者であるだけでなく、**環境・福祉・教育などの課題をもつ街づくり**の主体的担い手である
- 地域の変化するニーズにマッチした、商業やサービス業の新たな起業や更新
  高齢者の多様なニーズに応えられる「商店街の再生」が求められる
- **高齢者に住みよい街は、誰にも住みよい街、すべての住民が暮らしやすい街**
  地域の特性を活かすことは、誰にも住みやすい街づくりと共存できる

◆高齢者が上諏訪市街地に住むことのメリットの検討と街づくり

- **住みなれたわが家や地域で、長年の顔見知りと共に暮らせること**
- **豊かな自然に包まれ、インフラの集積した都市環境と伝統的な街なみのなかで生活できること**
- **歯科医・整形外科医（整体・鍼灸師）・薬局・医院や病院などの医療機関が身近にあること**
- **歩いて出かければ、暮らしに必要な用事がたせること**
  - ✧ 各種の商店やサービス業者が沢山あって、必要なものが近くでまかなえる
  - ✧ 銀行、信用組合、郵便局、農協などの金融機関
  - ✧ 足が不自由になっても、老人車を押して出かけ用事をすませることができる
- **上諏訪駅に近く、電車やタクシー・バスなどの公共交通機関を便利に利用できる**
- **ふれあいや余暇を楽しむ機会や施設が身近にあること**
  - ✧ 街あるきのなかで、知人との出会いや立ち話がある
  - ✧ 湖畔公園などの公園や並木、温泉施設、図書館、老人・文化・福祉センターなどの公共施設が豊富
  - ✧ 喫茶店、飲食料理店、公衆浴場、遊技場、映画館などの娯楽施設も多い
- **パートやボランティアなど、多様な社会参加の機会を見つけやすい**

＊ 高齢化のすすんだ市街地の『街づくり』は、これらのメリットをより豊かにすることにある

駅周辺市街地の将来構想に向けて（メモ）

26.3.2（1.31） 矢島義恭

［留意点］ ○人口減少と超高齢化の著しい上諏訪市街地の活性化をも視野に入れながら
○商業者や観光客を第一義にせずに、上諏訪住民の高齢者や子育て家族を主体に

［ｺﾝｾﾌﾟﾄ］ 上諏訪の高齢者や子育て家族にとり、住みよく暮らしやすい街のより所
○歩いて暮らせる便利な街、おしゃれでうるおいのある街、安らぎ楽しめる街
○コンパクトシティー

◆ 暮らしやすい市街地ｲﾝﾌﾗの現況と課題

歩道の整備とバリアフリー化

本町通り、ｻﾝﾛｰﾄﾞ、並木、柳並通り、笠森

小公園の整備

西口、並木口、並木通り

誇れる景観

・けやき並木自然景観、電線地中化、看板建築

交通インフラの利便性が整備

・電車駅、バス停留所　地域内、遠距離
・タクシーの拠点、公営駐車場(無料)、駐輪場

公共・金融機関の集積

・市役所の駅前出張所、郵便局、市民会館
・八十二、信金、郵貯、JA、長野、三井住友

保育園

・片羽保育園、　中金・県信組

教育

・高島小学校、上諏訪中学校、放送大学

塾や予備校

・東進、東大、諏訪、学修館、ﾁｬﾚﾝｼﾞｶﾃｷｮｳ、しんあい、信学会、

診療所・病院の集積

・花岡医院、清水、五味、北原、青木、清水、柳沢、矢島、岸、・・・　(栗林眼科)
・池田歯科、笠原、ますざわ、湖柳、根橋、後藤伊藤、渡辺、・・
・城東病院、上諏訪病院
・山口医院、あきやま整骨院、原整骨院、

◆地域住民の買い物の現況と課題

○駐車場の激増により住民の自動車所有一般化
○自家用車による郊外への買い物の一般化
○コンビニでの野菜や食材・惣菜購入の拡大
○コンビニが高齢者をﾀｰｹﾞｯﾄにする営業を展開
○生鮮３品の身近な自営商店の閉店がすすむ
○冷蔵・冷凍の食品や食材の品質向上
○JA・生協など食材や日用品の宅配が拡大
○ネット・テレビ・ｶﾀﾛｸﾞ等の各種通販の拡大
○高品質高価格品の松本や東京での買物
○車がない高齢者は品揃え豊富な店と無縁
○ｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽやﾀｸｼｰによる郊外店での買物

豊かな暮らしインフラがある

高齢者の健康と生きがい活動
・駅前みんなの広場(すわﾌﾟﾗｻﾞ３階)、シニア大
理美容店　多数
飲食店　・喫茶店　７店　・レストラン　少数
・居酒屋　多数　・スナック　多数
マンション
・ｽﾜﾝﾚｲｸ、諏訪湖、ｶﾞｰﾃﾞﾝﾎｰﾑｽﾞ、諏訪ﾌﾟﾗﾁﾅﾀﾜｰ
・ﾎﾟﾚｽﾀｰ諏訪、湖岸通り、湖岸通り二番館
ビジネスホテルや旅館・ホテル
・成田屋、二葉、浜の湯、南湖、シェモア
・上諏訪ｽﾃｰｼｮﾝ、ﾙｰﾄｲﾝ上諏訪

課題
○市民活動の拠点となる会場や催場がほしい
○市民の交流や楽しみの場となる広場がほしい
○楽しめる週１や週２の定期市・軽トラ市がほしい
○高齢者が気ままに立ち寄り過ごせる居所がほしい
○駅前に昔デパート、今高齢者施設(岡谷・塩尻)
○子育て家族のより所や文化的な施設がほしい
○住民のニーズを基本にした住民参加の街づくり

商店街の特徴

○上諏訪人口激減で商圏人口の減少と超高齢化
○オフィスが少なく駅やバスの通勤客が少なくなった
○諏訪圏域の各地に活気ある商業地域が成立
○観光客の商店街での買物は少ない
○商店街の店舗の敷地や店舗面積が小さい
○婦人服店(ﾌﾞﾃｨｯｸ・呉服)は３０店舗以上と多彩
○数多くあったスーパーが経営不振で相次ぎ閉店
○品揃え豊富な生鮮３品・生活用品店が少ない
○品揃え豊富な中核的な専門店が少ない

課題 ○高齢者のニーズをとらえたビジネス
○子育て家族のニーズをとらえたビジネス
○新興城南地区住民に魅力のある店づくり
○小規模でも郊外にない魅力ある店づくり

資料(2～25頁)の大部分は小生のﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞで閲覧しプリントアウトできます。

検索 ⇒ 「人口問題と高齢社会の課題」又は「矢島義恭」

2頁　　（本ファイルのみ掲載）
3頁　人口推計値ﾘﾎﾟｰﾄNo.１　　憂慮される日本の人口減少と少子高齢化　その原因について
4頁　日本と地域の３０年後までの「人口減少」と「超高齢化」
5頁　人口推計値ﾘﾎﾟｰﾄNo.2　　人口減少は地方で先行し　大都市圏ではゆっくりすすむ
6頁　日本と地域の３０年後までの「人口減少」と「超高齢化」
7頁　日本と地域の３０年後までの「人口減少」と「超高齢化」
8頁　日本と地域の３０年後までの「人口減少」と「超高齢化」
9頁　諏訪圏域６市町村の３０年後までの「人口減少」と「超高齢化」
10頁　諏訪圏域６市町村の３０年後までの「人口減少」と「超高齢化」
11頁　人口推計値ﾘﾎﾟｰﾄNo.１　　憂慮される日本の人口減少と少子高齢化　その原因について
12頁　人口推計値ﾘﾎﾟｰﾄNo.4　　諏訪圏域は長野県なみの人口減少、市町村間に大きな較差
13頁　諏訪市の地区別人口の現状と将来推計値
14頁　22年国勢調査分析ﾘﾎﾟｰﾄNo.7　上諏訪市街地の町内会人口の激減と課題についての考察
15頁　上諏訪地区の人口減少と少子高齢化
16頁　ﾚｼﾞﾒ　憂慮される人口減少と少子高齢化 その対策について
17頁　諏岡茅野３市の人口と新設住宅着工戸数の特徴
18頁　諏訪市内における継続的な地価の下落
19頁　人口減少社会ﾘﾎﾟ No.2　大都市圏の高齢者急増と、地方の介護負担の増加
20頁　30年後までの要介護認定者と医療費の推計値
21頁　人口減少社会ﾘﾎﾟ No.5　「人口減少超高齢化社会」がかかえる課題の素描
22頁　縮む諏訪を元気にするには グランドデザイン素描
23頁　ﾚｼﾞﾒ　憂慮される諏訪の人口減少とその対策について
24頁　矢島ﾘﾎﾟｰﾄNo.11　「上諏訪市街地商店街再生への提言」
25頁　　（本ファイルのみ掲載）